

「令和3年9月 佐久市桜井地区で計画している遊水地の住民説明会」議事録

令和3年9月27日（月）北桜井公会場

●佐久市

ここで質疑応答に入らせていただきます。

質問に当たりましては挙手をしていただきまして、こちらから指名をさせていただきます。

またあのマイクを持ちますので、最初にお名前を言っていただきまして、あと質問をお願いしたいと思いますよろしくお願いします。

○住民A

実はですね、私この会に来たの初めて出してもらいました前回は資料なんかを読ましてもらったんですけども、よくわからない部分がたくさんありまして、今日初めて。今日から私はこの遊水地の問題について考えていきたいと。

それで今みましたらですね、令和4年から6年に完成する予定なんですね。

○佐久建設事務所

目標です

○住人A

目標ねということは、もう遊水地は作ることは決定ですか？

○佐久建設事務所

造って行きたいと思っています。合意が得られれば当然

○住人A

住民の皆さんの合意がなければ中止ですか

○佐久建設事務所

出来ないですね。合意が得られるように説明します

○住人A

その後にもう1点はですね、湧水が出た場合、ちょっと作るの難しいんじゃないかという話に、今ちょっと聞きました。

あの東京電力の貯水池があります。確か深さ7 m ぐらいで、下がコンクリートです。あそこでも造って昭和の始めで約90年経っているんですけども造った時の話を東電に聞いてもらってああいう造りでなければおそらく遊水地の利用する時に価値観 一発で埋まっちゃいますんで水が入ればそこは改修しなければならない、また、改めてそういうことは皆さんお考えで110万m<sup>3</sup>という計算で出てるのかな？そういう計算ですか。

○佐久建設事務所

110万m<sup>3</sup>をカットする計算です

○住民A

ああー、その計算上はね、東電貯水池の場合も、7年か8年一度ずつ堆積物の回収をしてるんです水を全部取って無くしてそういうようなことをしなければ、あそこでも溜まっちゃって、もう土がかなりの量が溜まります。

それを考えるとですね、相当しっかりした遊水池、遊水池といいますけど周りを土盛り程度で造って本当にその効果があるのかどうか。

19号台風の災害ですか、34年の災害も36災害も全部覚えてますけど、こっから見たときに、もう千曲川の堤防の上に水が流れてましたから。

それでは何箇所かもう堤防崩れましてね、だいぶ堤防も嵩上げしてもらったりしてるんですけども、ちょっとその辺のところがね、もう1回ちょっと考えてみて、築堤を下コンクリートまでにするとかなりの金額がかかります。

いつまで田んぼはつくれるんですかね？

要するに、これを見ると来年から工事が入りますと田んぼの用意したいことが無くなっちゃうんですよ。まだ出来るか出来ないか分からないって無くなっちゃうんです。

そういうことはいつからやるかっていう話をねしてもらわなきゃ、まずやりたいと言っても、いつごろからやりたいという話。

●佐久建設事務所

ご意見いただいた中で、先に 東電の遊水地の関係のご助言いただきましてありがとうございます。東電の方ともお話しさせていただいております。

逆に東電の遊水地を使えないかっていう話をさせてもらったこともあります。構造的にちょっと違っておりまして、東電は水を下から入れる、常に土砂も入ってきてしまうということがございます。

今回の遊水地につきましては、越流堤の上から入ってくる構造なので比較的土砂が入りづらいという状況になっています。

ただし、洪水の水なので、土砂が入って溜まることがあると思います。

必ず110万m<sup>3</sup>の機能を発揮しなければいけませんので、その機能を確保する維持管理は常に行って参りたいと考えております。

常に110万m<sup>3</sup>入る状況を加味して行きたい。

○住民A

すいません。

あのですね、このような説明が次にある時には、

全面的に買い上げにするのか。

どのくらいの予算で買上げるのか。

そういうことがある程度、説明していただかなければ、皆さんのアンケートの中にも書いてありましたけど、先祖伝来の先人が作られてきたものを、遊水地として提供することについて私は文句言っていない。

私はもう結構だと思んですけども、要は誰もが納得するだけの金額を出してもらわなきゃ困るし、こちらでは田んぼを作って、勝手につくってもいいよ、こっちは買い上げるよでは、足並みが揃わない。皆さん工事も大変になります。それを考えてこの次のとき、ご回答いただきたいと思います。

ありがとうございました。

●佐久建設事務所

では今の時点でご紹介できることをお話いたします。

基本的には、この遊水地は掘削をしないと110万m<sup>3</sup>が確保できません。

そうしますと農地でなくなってしまうので、全部買収させていただきたいと考えております。金額は次の段階になると思います。

まずはこの計画を皆さんに概ね合意をいただけるところまで、まず進めさせていただき、その次のステップとして用地交渉なり、金額を提示するといった状況になると思います。順調にいったとしても早くて年度内に合意がえられたいという状況であれば、次の年に交渉をしていくというような状況になるかと思います。

来年度に工事がすぐ入るようなことはございません。

○住民A

来年度の田んぼの用意はしても、よろしいですかね。

もちろん飼料とかなんかも頼まないんじゃないんで、よろしいでしょうか？

●佐久建設事務所

はい

●佐久市長

令和4年度は耕作できるそうです

●佐久建設事務所

当然あの用地交渉にも時間もかかりますので、すぐ入るなんてことはいたしません。

当然皆様に合意をいただいてから入らせていただきたいと思います。

○住民B

市長さんにも聞きたいんですけどもこれだけの農地を潰すということで経済的にも今までお金を産んでいた土地が0になるわけですね。一円も生み出さない土地になるわけですね。

その部分は大きくマイナスになるかと思いますがね。財政的にもですね、かつ、今先ほどから110万m<sup>3</sup>ってずっとおっしゃってますけども、31ヘクタールの田んぼダム効果も失われますね。

この地区は内水が怖いと思ってるんです。今日の参考図も、特にそうですけども、2階建ての建物が並ぶのと同じ高さの土手がずっとできる浅間山もう見えないと。ですね。

そして、少しばかり百々川が深くしてくれたからと書いて、内水に対する危険はかえって増えましたけれど今日のこのCGを見て、もともとハザードマップ出てますよね県から。

木造家屋は、ここの地区はもたないっていう。

ハザードマップ令和2年版で出てますね。

令和2年3月10日に県が出したやつが、ハザードマップ出ております。

そんな話と矛盾しますね。

遊水地ができたならば、ここは安全になるんですか、危険になるんじゃないんですか。

市のほうはどんどん進めようとしているんですか。その辺をお聞きしたいです。

#### ●佐久市長

県の進める事業でありますけれども、今のお話にある、ハザードマップについては桜井だけでなく市内全域にですね、そういう色がついてます。

当然ご案内の通り桜井は相当色の濃い状況になっています。

それ自身をですね解決する工事には私はなっていないというふうに思っております。しかしながらその千曲川ですね、リスクってということについては、この工事によってリスクは低減される低くなるというふうに思っています。

最初の言ったお話があった、農地が失われるということはとても大きな問題だと思っています。課題だと思えますまた特にですねこの場所を先ほどAさんもお話になられましたけれども先祖伝来の土地また大変愛着を持ってらっしゃる方大勢いらっしゃると思いますし。また大きくですね、借りてなりわいとして大きくやられてる方がいらっしゃいます。

そういう方々に対して、その農地の交渉ということも今後のすごい重要なことになるというふうに思っております「佐久市としてこの事業を進めていく立場か？」ということについては様々な課題がありますけれども、その課題に対応していきたいというふうに思っております。

全体とすればこの工事を進めていくということが全体として必要なこと、というふうに考えています。

#### ●佐久建設事務所

内水の浸水想定の話について県が出してるということでございますが、県では、国の方針に基づきまして、想定される最大規模の降雨量ということで、1000年に一度というレベルの浸水想定を出しております。

それと、以前の市からでていたハザードマップが出てました、100年に1度の計画規模降雨のときの浸水想定と、この2パターン出ささせていただいております。今、佐久市から出している洪水ハザードマップというのは、そちらにも張ってあると思いますが、これは想定最大規模降雨ということで、以前のものと比べると、かなりの浸水のエリアが広がっているのがわかると思います。

これは市から各地域でその浸水想定の見方というのをレクチャーしていただいていると聞いておりますが、その中でもご説明があったと思いますが、今のハザードマップで示すのは1000年に1度の規模で降るであろう大雨ですので、このレベルを守るという河川整備ということとはとてもできません。

もし、こういう大きな雨が降ったときにどこに避難したらいいか、そういったところを促すための資料でございます。

これについてハード的に護岸を高くするかそういう形での対応はとてもできないので、本日私どもがご用意させてもらった、この浸水想定マップが、従来通りの想定される100年に1度の、計画規模降雨で想定される浸水想定を示しています。

そこへ今計画しております遊水地の高さをプロットしたものが右側にある水色で示しています。

この高さを持ってシミュレーションをかけると、左だったものが右のようになるということで、この100年に1度の浸水想定で考えるとところにおいては、遊水地は被害を拡大させることはないんだということで確認したものでございます。

#### ○住民B

今に関連してですけども、3mもの土手がずっと集落の北側に並ぶわけですよ。

今まで田んぼの中に流れ込んでいった内水がですね、これ今度グリーンの線で堤防が強化されるかもしれませんが、それ以外の内水が行き場所をなくしてこんどは堰き止められるわけですよ。高速道路は土盛りです。新しく土盛りがたくさん北側に並ぶわけですよ、切れ間の無い土盛りが、千曲川には切れ間がありますけれども、集落側にある切れ間がないですよ。内水の行き場がどこにもないじゃないですか。内水の危険を考慮してないこの計画は。

●佐久建設事務所

百々川ですが、ちょうど周囲堤の脇を走っている水路です。

この周囲堤ができたときに、せき止められる全ての用水の関係として、今直接こちらの田んぼの方に行くもの、あと通常の通りに流れていくもの、さらにこちらから遮断されて回ってくる水路、片貝川からこちら部分の水量を計りますとこの赤い線まで必要だということが確認されました。計算上出てくるものでございます。

現況は、緑のところでの水路高さですので、当然足りないところがあるということで、この足りないところを改良していくと、山側から出てくる水、あと、上流から入ってくる用水、そういった全てのものを見込める状態になったものということで確認しています。

さらにこちら側の集落においては、片貝川の方からの越水といった、そういった浸水があるかと思えます。それについては片貝川の方で対策を行っているというのを説明させていただきました。

○住民C

あのですね前回の説明のときに、この設計は私絶対嫌だよといったことがあるんですけど、全然検討してないということは、もうこの面積というのはね、北桜井の真後ろに、あなたいい写真撮ってくれたよね、それで3Dで今出口からこういうふうにつります。それで平気ですか？

あなたがここの住民だとした場合に、千曲川からこちら見ると非常にいい、いかにも遊水地つくるには便利にできてますけど、先ほどね、写真1番最後の〇〇さんなんかは隣のね、あそこの写真撮ってあって、堤防ができるところこうなりますと目の前にねと、あんな近く、あそこ下げられないんですか、どうしてもそれだけの面積が必要なんですか？真後ろでしょう。集落の。

1番はね、あなたも知ってると思うけれど、御影橋からのあそこまで7m分の高低差がありますよね、桜井たって北桜井は中桜井から見ると10m以上の高低差があるわけだね。

どん詰まりですよ。

そこに集落のすぐ後ろにどん詰まりでね、それ前言ったときにはあの道はあの堤防にぶち当たるっつからふざけるなって私言った覚えがあるんですけど、当然迂回路当然あるはずなんですけどね。

もうちょっと下げて面積小さくしてでもね、生活空間というのがあるでしょう。皆さん堤防から見たときっていうけど、あの写真撮って3Dでこううつりますって、あれで平気でおられます？

私理解できない。

少しはあの下げてね、こういう空間全部取るとは言わないけど、その集落の小さい30軒くらいですよ、その幅のね、もうちょっと奥行きを少し取って空間を作るというね、前回もそれ言ったんですけど、何にも触れないということはこれですね。

右側にこんな風に写りますよ。

確かにいいことなんで、これで自分があんたここで暮らしていくってときに、ああ、どうぞどうぞといえますか。

立場的に、まあ今立場だから言えないかわからんけど、そういう目線にも立ってね。その桜井たって中桜井、上桜井高いところですよ、北桜井だけがどん詰まりなんですから、やっぱり千曲川から見たら逆の目線からもね、こちらの居住区からも見て、やっぱりその辺は面積も必要でしょうけども、考えていただかないとですね、やったが最後永久でしょう、ね。都合悪いから削りましょうってできないわけだ、やっぱりね、住民の気持ちというのも考えて目線をおいてもらってね、配慮してもらわないとね、検討しましょうとかやりましょうというところに進みたくない、と僕は思ってるの。その辺もね、よく考えていただきたいね。

だからBさんが今言った通り、それに全部ね、全部うんととは言わないけど、せめてね、この集落の幅をある程度検討して、奥へ下げるぐらいのことはやってできないことないでしょう。

#### ●佐久建設事務所

まずどん詰まりの道のお話ですが、これはイメージでそのまま載せているので、この中の計画、付替道路とかそういうのはこれから皆さんの意見を聞いて、設計に活かしていきたいと思っています。また先ほどいただいたご意見で、これも少し下げられないのかとか、そういった話も本日お聞かせいただいて、それを設計でどのくらいできるかというのをこれから検討していきたいと思っています。

基本的には私の方でもできるだけ低くするように、この計画を検討してまいったところ  
です。

ただ量的には減らすということがどうしてもできないので、やむを得ずこういった形  
のものを出しているという状況でして、これによって皆様のご意見を伺いながら、ど  
うできるかというのをこれから検討していきたいと思ってます。

○住民D

私ん家は一番最後のけつのとこなんですけど、A社さんが昔家の横で仕事してたんで  
すけど、あの所沢のA社ってとこなんですけど、その方もB社に売っちゃってそれで  
事務所はもう潰しちゃったんですよ。

ソーラーをその代わり、うちの昔閉じちゃったところに建てて、家の裏の空き地とい  
うか昔親父がいた頃は駐車場で車いっぱい停まっていたんですけど、そのところもA社  
と、その土地のA社と私んちが両方の所有になってるんですけど、そういう問題とか  
一番どこ、どの辺まで遊水地の塀とかそういうのがとれるか、そういう問題もあるし  
A社さんがあの家の横にソーラーがあるんですけどA社のやってる、それで遊水地の  
引っかかっている部分もソーラーがあるんで、それで、そこのやつのいろいろ買収なり  
遊水地が工事が進めば、買収ってことでA社もそのときには来ていろいろ話さなきゃ  
いけないと思うんですけどね。

そういうことなんですけど。

●佐久建設事務所

先程横断図で説明した、一番近い家から周囲堤までの距離間ですが、下幅で今15mぐ  
らいの距離で、上幅でいくと34mぐらいの距離があるということです。

○住民D

川の向こうになるんです？塀は。百々川の。

●佐久建設事務所

そうです。ここの百々川がちょうど法尻ぐらいなイメージという感じになります。

○住民D

じゃあ、駐車場っていうか空き地のところはかからないってことね？

●佐久建設事務所

百々川はこれから広くしようと考えています。  
その分こちらの土地に入る可能性があります。

○住民D

A社の田んぼ側のソーラーはどうなるんですか。

●佐久建設事務所

改修するとですね、広げなければならないので、ソーラーの駐車場は当たる可能性はあります。

○住民D

またそれは無論工事する前にA社さんも呼んだりしなきゃね、話し合っただけ、俺もちよつとちらつと言ったんだけど、電話で。

●佐久建設事務所

今後、きちんと測量してしっかりした断面が描けてから、お話したいと思っています。

○住民D

うちの土地の分もあるしA社さんと自分の分があるから、そこはやらなくても百々川を広げるか、どうかするんでしょうけど。  
だからいずれにしろ、あの北側の川の向こうにできるってことですよね。塀はね。

●佐久建設事務所

そうです。この川よりも少しあると距離5mあると思いますが、この辺から上がっていくようなイメージです。

○住民E

先ほど、ちょっと3点ほどあります。

1点はですね、市長さんにお伺いしたんですけど、市長さん選挙に出る前とか、出た後か出た時かに、ここに桜井地区に、この遊水地をつくるという話を、確定的なような形で発表されましたよね？

それはどういうことですか。

地域住民の方の説明会はまだこういう段階で行われてない段階に佐久市としては、桜井地区に遊水地をつくるということを発表されましたよね。

それが1つ。

それからですね。

このところに遊水地つくるのは滑津川と田子川とか百々川とかタメノというふうにお聞きしましたけども、このエリアにつくるっていう、前のときも説明したと思うんですけど、東電の堰堤が千曲川を横断してるわけですよ。

で、そこでせき止めているわけですよ。

ですから、その状態のときに前にも話したんですけど、私どもガキのころは、3m、4mって千曲川がああ堰堤から上は深くにあったわけですが、今は面一になって土壌があるわけです。

それで、先ほど計画の中では、今回まあ今工事をやっているようですけども、表土をちょっとだけ剥いでるだけですよ。

今見てれば、で、現実的には堰堤のもうちょっともう本当に深くから掘っていかないと、今出してもらった土量では河床が下がるということはないと思います。

ですからその辺の計画は見直していただいて、どうするのかっていうことをきっちり計画をしていただきたいのと、それから佐久市にとってはここにつくるのがいいんだらうと思いますけども、下流地区、長野エリアが、一昨年の台風によって被害があったわけですけども、あのエリアにこういう計画が前お聞きしたら、それはそちらの地域でやってますという、ご回答があったんですけども、あのエリア私仕事でしょっちゅう行くんですけども、ものすごい広大な場所にですね千曲川の河川の中に、皆さん桃を作ったりですね、長芋作ったり、畑をいろんなことやってるんですよ。

それが実際の川が流れているエリアじゃなくて、その堤防の中にそんな広いところがあって、やってるんですけども、そういうエリアでこういった計画を作ってくっていうのは、ないんでしょうかね。というのをちょっとお聞きしたいんですけど。

それからこの前も言いましたこの遊水地が出来たときにですね、どういうふう管理をするのかという計画を全然聞いてないんですね。この前お聞きしたときでは、中に入る道路でさえないと、管理道路もありませんよというような説明が、林さんですか、説明をいただいたように思うんですけども。

そんなでたらめな計画を、さあ皆さんやれ、つくりますからっていう、前にも言ったと思うんですけども、今現在千曲川が荒れててですね、鳥獣のものすごい繁殖地になっているんですね。で、周りの農作物、シカが出て荒らしたりなんかしてるわけですよ、イノシシも出たり、結局今度ここそういう計画がなくてですね、何もやっていかないということになれば同じようなことがずっと起きていくと思うんですね。ましてや、この1番近い民家から15mしか離れてない法面がきて、高さ6m2階建て8m近いような堤防が出来て、中がまるっきり鳥獣のですね繁殖地になって、じゃあ隣近所で畑つくってそれ全部被害にあう、そういうようなことは考えたことはないでしょうかね。どういうふう管理するのかっていう話も出して、計画的には聞きたいと思うんですけども。

#### ●佐久市長

最初私、ご質問がございましたあの遊水地について今年の4月の選挙、その周辺において、それを決定をしているが如くですね、説明があったというお話がありました。私自身、あの選挙を通じてですね、この遊水地計画があることは多くの市民の皆さんにお伝えをしたところであります。

これはこの千曲川、信濃川水系のですね、研究プロジェクトの方で佐久市においては、この千曲川左岸、千曲川の左側ですね、左岸になりますけれども、こちらの方で行うということは国、県の方から示されているものであります。

そういったものについて、先ほどのご質問にもありましたが、この施設は必要なものということ、私どもの思いとしてはございました。これは選挙の前も今もそういう思いでありますけれども、そういったものについて私自身とすれば、この選挙において、どういう姿勢で臨むか、その施設が必要であるという立場を私自身としては明確にしたつもりであります。

ただ、そのどの田んぼを遊水地にするか、何mにするのか今話題となりました家屋との距離というのはどのぐらいにするか等については決定をしているわけではありせんし、説明をする情報もありませんでしたし、説明もしていません。

しかしながら、例えば、例えばその中部横断にしてみても、路線が全部決まっていなくても、その道路について必要であれば必要だと私は思いますっていうことを申し上げますし、先の選挙におき、違う選挙、一つ前の選挙のときにおいてもですね、工業団地については、この場所、もしくはこの場所。当時とすれば佐久南インターもしくは臼田インター周辺で工業団地をつくっていくことを私は進めていきたいと思っておりますという表現をしているわけでありまして。

そういう意味では、桜井地域で行っていくという方向が国県から示されましたので、そういうことを私は支持していきたいと思っております、そういう方向で進めたいと思っておりますという思いで申し上げました。しかしながら、仰った通り決定をしている、本日現在も決定しているかというのは決定はしていません。

その中において桜井地域というですね、いうことについて、地域の皆さんに不愉快な思いがあったとするならば、お詫びを申し上げたいと思っておりますが、選挙ということについては問われれば、私は考えを示さなきゃいけないので、前もってこういう考えですということをお伝えをしたということでありまして。配慮のない点、配慮がですね、不足であった点、また文字にした中において、不愉快な点がありましたら、お詫びを申し上げたいと思っておりますが、以上のような思いである説明をさせていただきました。以上です。

#### ○住民E

はい、ありがとうございます。わかりました。

ただあの、今も出たようにですね、先祖代々からの土地を決定したが如くですね、言われるっていうのはやっぱりよくないことだと思いますよ。

ある程度計画が煮詰まった段階の中でね、発表されるのはまあいいかと思うんですけど立場上、現実においては、まだこんな状態ですよ。

#### ●佐久市長

はい。よくわかりました。

ありがとうございます。

#### ●佐久建設事務所

うちの方で3点お答えしたいと思います。

まず、東電の貯水池の堰堤の高さより深く掘る検討をとという話がございました。今の河川の中で堆積しているところを掘削して、断面を確保しているところですけども、東電の方の話も伺いながらどこまで掘れるか検討して進めていきたいと思っております。

それと遊水地ですが、今、千曲川上流で県の方で検討してるんですが、その他に国とか両県で全部で9ヶ所で遊水地を整備することになっています。千曲市とか、あと上流になるのですけど中野市、飯山市で19号台風のときに越水してしまっところにはですね、遊水地を整備していく計画がございます。千曲川の河川内に、長野市でいえば広い畑とかリンゴとかで使われるところ自体は、先程のバルーン会場の話にもありましたが、河川の高水敷の中で洪水時には河川として流さなきゃいけないところにその果樹園とかがあります。そういうところに遊水地を整備するとなると、洪水時には流さなきゃいけないところですから、どうしてもこの川の断面の外に、今計画している遊水地と同じように、一時的にためる施設を作らないといけないということで、その他のところも、同じ計画で進めていますので、ご理解いただきたいと思います。

それと、遊水地内利用の管理の仕方ですが、これもまだ具体的には決まってないっていうのが正直なところなんです。

まずは遊水地計画について、皆さんの合意が得てからですが、この遊水地をどういうふうにご利用していくのか、佐久市さんとも相談して維持管理など考えていきます。先ほどの大阪府の例ですと、グランド整備とか、駐車場とか作って、おそらく府だとか、利用する地区の皆さんとか、市の皆さんとかで管理している状況もありますので、もっと具体的になってから、管理体制とかを計画していきたいと考えております。

#### ○住民E

なぜあんなこと聞いたかっていうとね、先ほど▲▲さんの方から出たように、一番下の民家からですね、15mしか離れてないと、法面までね、結局一つの計画はこんな計画ではないふうに聞いてたんですよ。

もう1個向こう側の真ん中に道が通ってますよね。農道が。あのエリアくらいまで下がってもらえれば、そういう計画をして作ってってもらえれば、面積が足りないならば、上のエリアでも、その鉄塔があるところかって鉄塔のどこまで行かずに、とかそれから高速道路の下のエリアを検討しているようですけどそういったところも分けて

いけば、民家からかなり離れることができるじゃないかなというふうに思うんですよ。

それでその中で例えば計画、管理計画どうなのっていうことを聞いたのは、我々の中に、例えばね、そんなに高い堤防が出来た中で、中にも入れない洪水がないのに何も無いっていうのはさ、管理道路も出来てないっていう計画の中ではさ、どうすればいいのっていうことさえわからないじゃないですか。

まずそういう、どういうふうにするということもあってじゃあ管理道路もここから入るんだと。

だからこうなるのとかって話がなければさ、私のとこから見たってこの高さがですね、2階建て15m先っていった高さになってますよね。

そしたらもう浅間山だって見れないってことですよ。状況から言ったら。

#### ●佐久建設事務

まず当初お話したように自家の近くでは高さ6mぐらいという状況になっています。前回説明会のときはエリアを示させていただきました。

今回、このエリアの上に立体的な構造物、高さを示したものを、示させていただきました。その中で、こういった線が下に下りる道も示させていただきました、当然ながら使用目的はいろいろあるかと思いますが、これから皆さんの合意が得られてからしっかりと考えていきたいと思っております。当然、遊水地内を管理しなきゃいけないので、下へ下りる道というものを、それぞれに配置しているという状況でございます。これを見てご意見いただければと思っております。

この周囲道路がないというのはこれからの調整するところだと思っておりますので、それについては意見をいただいておりますので、これからの設計に反映していくと、また集落から周囲堤を離していく検討をしていきたいと思っております。

それで今回、堤防を3割の勾配という形で示させているところが、管理のしやすさということで考えているものです。通常によくみる護岸については2割よりきつい状況です。こういったところの草刈りというのはできませんので、3割に緩くして、機械的に草刈り機の乗用だとかによって管理しやすい配慮しながら、管理していきたいと考えている状況です。ここまでが私どもの今言えるところで、今後の利用については、皆さんの合意が得られる中で、皆様の意見を聞きながら、それと当然、佐久市の意見を頂戴しながら、決めていきたいと思っております。

●佐久市

すいません時間の都合もごさいます、また今後あの住民への意向調査とまたこれから説明会が5回予定されています。

その中で質問したことにつきましては、回答文書にしまして佐久建の方でまた皆さんにお伝えしたいと考えています。本日まだご意見等思うことがありましたら、最後1名の方どなたかいらっしゃればいかがでしょう。またお気づきの点がいろいろありましたらこの意向調査の方にいろいろ書いていただいて、それをまた文章にして皆さんにお知らせしたいと思いますので、よろしく願いいたします。

それではよろしいでしょうか？

○住民F

すみません、最後に1個。

あそこのとこ今堤防崩れましたよね、こちらね、直ったとこ。あれね、浅蓼大橋ができてからぶつかるようになっちゃった、水が、それで昔は私達の小さい頃は、なんていうんだろあの、三角形に木を立てて、水をね流すっていうか、かえす工事してあったんですよ。(牛粋)

あれは今俺見たことねえんだ、ああいう工事はちょっと考えてまた見てもらった方が、あそこはちょうどね、浅蓼大橋の脚がどうしてもあってぶつかっちゃうんだね水がね、よろしくどうも、以上です。

●佐久市

ありがとうございました。

長時間に渡りましたが、これで本日の説明会を終わりにしたいと思います。

また今後よろしく願いします。

ありがとうございました。

「令和3年9月 佐久市桜井地区で計画している遊水地の住民説明会」議事録

令和3年9月28日（火）野沢会館

●佐久市

続きまして、質疑応答に入らせていただきます。質疑に当たりましては挙手をしていただき、こちらから指名をさせていただきます、マイクをお持ちいたします。また、質問に当たりましては、まず、名前を言っていただき、その後質問をよろしくお願ひしたいと思ひます。

では、よろしくお願ひいたします。どうぞ。

○住民A

佐久市の下越に住んでいる〇〇といいます。ちょうど19号台風のときに下越の区長をやっています、この災害の問題に\*\*\*の区として取り組みました。それ以来非常に強い関心を持ってこの問題に取り組んでいます。

質問に入る前に、こういう説明会のときに、こちらの我々の参加者のところにもテーブルを出してほしいんです。いろいろ書いたり見たりするのに、皆さん方のところにはあるんだけどこちらにはないので、この施設はもう何遍も使ったことがあるんですけども、テーブルはたっぷりありますから、このぐらいのときには、ちゃんと参加者のほうにもテーブルを配置して、準備していただきたい。

それから、今日の配付の資料は全部ではないので、映像に映っているのはホームページで見ることができるのかどうかも聞きたいところです。

それは別にしまして、私の質問したいことは、この遊水地計画で、なぜ遊水地なのか、なぜこうなったのかということの説明は一応理解しました。ただ、一番の問題は、今までにない記録的な大雨になった、19号のときにですね。大変な甚大な被害が起きたのですが、私がいろいろ調べると、大雨が降ったから大災害が起こるとするのはストレートではない、イコールではないんですね。ちゃんとした対策をすれば、被害はある程度はあるけれども最小限にできる。

だから、19号のときにこの千曲川の関連では大きな決壊もあったし、各所で甚大な被害があったわけですが、どうしてその土地に被害が出たのか。大雨でどうして出たのか。その土地の状態というものをよく見つめなければいけない。記録的な大雨だから大災害があってもしょうがないよねと考えたら進歩はないわけなので、そういうことが必要だと。

そうすると、この千曲川流域、特に今回のこの問題になっているところの上流部は、大半は森林です。それから農地も結構ある。それから市街地や工場などいろいろなものがある。これら全体を点検して、どうしてこれだけ大雨が降ったのが川に浸入したのか。森林の保水能力もあるし、農地にもある程度ある。市街地にもいろいろな施設をやればあまり川だけに負担をかけないようなやり方もいろいろある。何でそういうふうになったのかということ点を点検する、こういうことが必要だというのは前々から言われているんですね。

今度、国土交通省が流域治水政策を転換したんです。これは流域全体で考える。流域全体で点検していく、受け持って負担をみんなで分かち合う、そういう考えなので、これまでのような河川とダムに頼っているだけでは駄目だということで、ようやくと転換をしたんです。それは国土交通省の文書にも書いてありまして、これは転換は必要なことだと私も思っています。

こういう流れから見ると、今度の遊水地のことが必要かどうかというよりも、本来ならば、もう少しこの計画の前に、この河川とダム、あるいはそれを受け止めて、水を河川に流している森林の状態がどうなっているか。役割を果たしていないとすれば、どうしてそうなのか。それから農地の状態。これらをちゃんと点検して、それで新しい治水政策を考えるというのが基本の基なはずなんです。多くの専門家や研究者はそのことをいろいろなところで指摘しています。

ところが、私が見ている限りはあまりそういう動きがこの地域では見られなくて、突如、この遊水地計画がポンポンと出てきて、これが必要だと。今あった説明で、流量が増えるからそれをここで確保すると。それだけでは流域政策の転換にはならないわけです。従来のように施設をつくって、一応この分はこの施設でためるとなっている。どうもこの前提が分からない。

さっき市長も、2番目のポイントで必要性と言っていました。遊水地をつくる必要性の前に、ここをつくるだけじゃなくて、やることはもっとたくさんあるはずなんです。例えば、河川の浚渫を、今幾つか箇所がありました。もうじき終わります。長くなって申し訳ない。何か所かありましたけれども、必ず河川に堆積していくわけです。河川の底が上がって水を受け止める力がない。だから、恒常的に絶えず浚渫をしなければ、どうしてもあふれてしまう、そういうことだとか。

それから今度は決壊がたくさんあったんですが、決壊しないような堤防をきちんとつくっていく。これも必要で、既に言われているんですね。川の表と川の裏のところをきちんと整備すれば、今度のような決壊は防げたかもしれない。そういう点も当面対策として必要なんでしょうけれども、この遊水地計画が、まずこの計画ありきではなくて、どうして19号台風と流域政策の転換を図ったにもかかわらず、やり方としては従来と同じようなやり方で、この計画をつくるんだと、これはこういうことで必要なんだということになっているのか。もう少し流域治水政策の基本に立って、流域全体を点検してそれだから必要があると。そして、川にあまり負担をかけないような、森林は森林の、農地は農地としての役割を十分果たすように、これはいっぺんにはできませんけれども、徐々に計画的に着実にやっていくという、そういう考えにどうして立たないのか。

それをやった上で、それらをずっとやった上で、どうしてもこの場所にはこれぐらいのところがないと受け止めることができないということになれば、遊水地という考え方も、場所によってはそういうことで受け止めるというのは、流域治水政策の中にも入っていて、それ自体はあれなんです。そういう取組がなくて、ぽんと、とにかく緊急だということ……。

●佐久市

申し訳ございません。多くの御意見を聞きたいので、私のほうでまとめさせていただきます。他の流域治水の対策の関係と遊水地の関係について、県から一度説明いただければと思いますが、よろしくお願ひします。

●佐久建設事務所

（流域治水に関する）今の国交省のお話は現在国で進める政策そのものです。総合治水対策のご意見も、おっしゃるとおりだと思います。

今回の千曲川水系の治水対策プロジェクトについては、令和元年の東日本台風災害により長野市の穂保での堤防決壊をはじめとして流域全域で甚大な被害を受けたことにより、同様な規模の雨が降った場合の被災を防ぐための喫緊の課題に答えるものです。千曲川の流域、さらに下流の信濃川も含めて、流域全体で各地域それぞれで、先程示した目標年度を決めて、すぐできることを行いたいと。

先ほどお話しいただいたように、国交省の方針転換における考え方というのは、当然これから長期的にもきちんと考えていかなければいけないことと思っています。

ただ、今回のことにつきましては、令和元年の東日本台風クラスがまた来たときに、同様な災害に見舞われないための喫緊の対策であるということを重ねて、御理解いただきたいと思ひます。

●佐久市

次の方。

○住民B

御苦労さまです。私は臼田町に住んで片貝川の上流のほうにいます〇〇と申します。

今、遊水地の必要性についてのお話ですけれども、私がいろいろ調べてみまして、遊水地というのはどういうものかということはよく分かりました。それで、一つ質問ですけれども、遊水地の設置により、例の穂保のところの水位を低減させるということが目的と言っています。水位を下げたいという長野のその地域は、ここから80km先の場所です。これが一つ。80km先の水位が下がるのかどうか。それと、標高差から見ても、長沼はT.P. 338m、桜井はT.P. が650ですから、300mの落差があります。こういう落差があつて非常に急流です。ここで向こうに行って水位が下がるのかどうか。

もう一つ一番重要なのは、この桜井のところの川幅は200mです。例の穂保は1,000m、1kmあるわけです。須坂のほうから行つても向こうの堤防は見えません。200mが1,000mになる、これだけ幅があるのに水位が下がるのか。下がるとしたら何センチなのか、まずお聞きしたいと思ひます。

●佐久建設事務所

今回、計画する遊水地は長野市穂保の水位を下げるためにつくるというものではありません。

○住民B

そうやって説明したでしょう。穂保が決壊したからと。

●佐久建設事務所

穂保の決壊は事例として説明したのですが、私の説明がわかりづらかったようなので補足させていただきます、穂保の水位を下げるために遊水地を設置したいというのは、訂正させていただきます。佐久建設事務所の遊水地計画は、先ほどの滑津川、田子川、谷川で、今回復旧により断面を広げて改良しますと、今後降った雨が、今までの水量よりも増えてしまいます。増えた水の量を貯水池で一時的に貯めておくことで、下流に流すのは今までと同量とする、水を遊水地で一回先取りする、ピークをカットするということです。つまり下流の水位をどれだけ下げるといよりは、今回の改良で増えた水量を取り込んで帳消しにするという形で水位を変動をさせないで下流に流す、下流にしわ寄せをさせないために、遊水地を整備したいと考えています。

○住民B

その関連で、皆さんのプロジェクトにおける長野県、佐久地域の対応のところに、要するにこの遊水地の設置により浸水被害の解消が図れると。そして千曲川本川の水位の上昇を低減させると書いてあるんですね。低減ということは低くなるということでしょう。今あなたは水位が変わらないと言ったんだけど、それはおかしいじゃない。低減させると。そして下流への負担増をなくすと、このために遊水地をつくるんでしょう、110万t。その110万tで下がるかどうか疑問だけれども。

それだって、さっき言ったように、穂保が越水して決壊したわけです。破堤したわけですから。それを防ぐために、いくらか時間を遅らせるとかそういうことを言っているわけでしょう。じゃあ、何センチ水位を下げるということに目標があるんですか。何センチ低減させるわけですか。そこを聞きたいんです。そうじゃないと、ここへ遊水地をつくった意味が何もありません。30haもつぶして。

●佐久建設事務所

今の千曲川上流から信濃川までで、穂保は一例です、ほかにも千曲市や中野市、越水した箇所がそれぞれございます。増えた水の量をそのまま、例えば遊水地がなくて流し込みますと、下流に水の量が増えてしまいますので、何センチ増えるからその分を下げるという分けでなく、ピークをカットして、元と同じ水位のまま流すという考え方です。

○住民B

低減と書いてある。

●佐久建設事務所

遊水地を設けないと増えていってしまう。増加分が下流に影響を及ぼすということで、下流に負担をこれ以上与えないために、遊水地で確保することです。

○住民B

ちょっといいですか。

●佐久市

ほかの方からもいろいろ御意見を伺いたいので。

○住民B

そのことで、全然言っていることが分らないです。この計画をつくったのは平成20年につくったんだけど、その後、今年の2月14日の信毎の報道によりますと、千曲川が越水しないように、長沼地区辺りの堤防を90cm上げるという方針に変わったわけです。90cm、1m近く堤防をかさ上げするという事です。この間行ってみましたら、一生懸命測量していました。そうなれば、こっちの行った分が、別に遊水地をつくらなくも、去年の19号並の洪水が行ったって越水はしないと思うんだけど、それはどうなんですか。

●佐久建設事務所

その部分的な話と、やはり流域全体に降ってくる雨と、あと千曲川本川からいろいろ入ってくる支川の量がありますので、その量で、それぞれの対策を、広げるところもありますし、かさ上げするところもあります。今回の目標は、あくまでもこの信濃川水系で19号台風と同じ規模のものが来たときに、どこでもあふれさせないために、いろいろな方策を立ててやっていきたいと思いますという計画ですので、上流の方である佐久では、今回改良系で断面が増えますが、その増えた分は遊水地でキャンセルして、下流には負担をかけない計画です。各々の地区で考えて行くことで、どこでもあふれさせないで下流まで行っていこうという目標です。

●佐久市

また、その辺今後も説明会がありますので、分かりやすい説明を県とも話ながら考えて、皆さんにも報告させていただければと考えております。

では、2列目の方。

○住民C

〇〇といいます。住んでいるところは遊水地をつくらうとしている対岸の上の家に住んでいます。一つは、どうしても遊水地なのかということです。それがみんなが納得できるならばそれはどこかにつくらなければいけないということだと思んですが、一つは、したの部分、要するに立ヶ花からちょっと上流の部分、だいぶ泥がたまっているという状況が報告されています。だから、同じ降水量で同じ流量で水位が上がっているということだ。だから全体として河川の中の水の容量、これをなくせば、要するに遊水地は要らないということですね。要するに、河川の中の容量があればいいという。

だから、そのためにダムが、佐久の上にはダムが幾つかあって、ダムの中の容量がどうで、どういうふうに制御すればどれだけができますよ、川を浚渫すればこういう容量になりますよと、それでも間に合わないということになれば、どこかつくらなければいけないということになるわけですが、そういったいろいろなことを施した上で、下の水位を抑えるという方法ができるかどうかを、やはり皆さんが納得できる方法がいいと思うんです。

遊水地をつくるには、やはりこの広い場所というのは優良農地ですから、そういう面からすると、みんなが一番気になる場所ですね。

一つは、滑津川が氾濫したわけですが、滑津川の下のところは、私はいつも通っていますが、40mちょっとぐらいしか幅がない。あそこへたまってしまって、下に東電のせぎがあるんです。あのせぎを取ってしまうと今度東電が水を取り入れられなくなってしまいますね。だから、あそこのせぎを壊せば一番いいんですけども、あれは壊せないかもしれません。

そういった面からすると、流域の面積からすれば、田子川と滑津川の流域と湯川の流域が相当広いんです。湯川は私の住んでいるところのすぐそばが越流して落橋しまして、まだ直していません。そういうことで、つくるならば滑津川や湯川の下かもしれません。それが一番いいんじゃないかと思うんです。そういう場所の問題、もう少し十分検討したほうがいいんじゃないかと思います。

その前にやらなければいけないことが河川の本川の容量です。これが一つ。せぎの位置、上は急流ですからみんな流れてきます。流れた後は石がいっぱい、そういう点からすると、僕が一番気にしているのは、ここでなければどうでも駄目なのかということ。それは何かというと、やはり優良農地だということ。それが一つ。

もう一つ、この千曲川の流域の＝しっぽ＝は、要するに塩名田のところなんです。塩名田の下の橋の部分ですね。そのハイドログラフがないんです。一生懸命探したんですが、塩名田のハイドログラフがないんです。それから下は全部あるんです。上田のところも千曲市のところも長野市のところも全部ある。ところが、佐久の一番狭い水の集まる所のハイドログラフがない。それがあれば出したい。どうしてかということ、佐久のピークが立ヶ花のピークにどう影響しているのかを知るためです。それはお願いしたいと思います。以上です。

#### ●佐久建設事務所

まず、河川の断面をもっと広ければそれだけ水が流せるので、遊水地が必要なくなるという議論はありますが、そうすると、本当に新潟県の信濃川から全てを流せる幅で下流から上流まで整備することになります。全く途方ない話なのですが、そのような広げる計画が直近でできるならばそれが一番ですし、遊水地をつくらずにいけるといいます。現状では家が近くに立ち並んでいたり、これ以上横に広げられないとかいろいろな状況があるので時間的、予算的にも難しいことです。今回のプロジェクトは掘削できる場所は掘削する、堤防を上げられるところはかさ上げる、遊水地が必要なところは遊水地をつくと千曲市でも中野市でも同様に一時的に水をためる遊水地もつくるといった計画で、それぞれができるところで行っている状況が今の状況

です。

それから、御指摘いただいた今の河床、河川断面にある堆積土砂などがあってスムーズに水が流れないのは治水上よくないので、今も実施している掘削を継続的に行っていきたいと考えていますので御理解ください。

○住民C

幅を広げられないから浚渫するということですね。

●佐久建設事務所

川の容量を増やす、

○住民（Cとは別の人？）

幅は簡単に広げられないから、たまっている土砂を除く。  
何で浚渫がもう少しできないのか継続的に。

●佐久市

ありがとうございます。

続きまして、どうぞ。

○住民D

平賀に住んでいます〇〇と申します。説明の信濃川水系緊急治水対策プロジェクト、配っていただいた2枚目の裏に、支流の堤防整備というのがあります。今回滑津川の石神地区と田子川と谷川が決壊したということで、この改善ということになっているんですが、これは災害復旧だけではなくて、ちゃんとやるということなんですね。

私、もう三十何年、滑津川、田子川と内山川のくっついたところを滑津というんですが、そこから50mぐらい下に住んでいるんです。今住まいだけは平賀に移っていますが、ここでは田子川が狭かったり、東山に大雨が降ると越水するんですね。洪水になるのではないので今のところいいんですが、今回も西側の地区は中込新町という場所ですが、2年前の台風も危ないからということでみんな避難したんです。たまたま常和でこんな状態になったので、よかったといったら怒られますが、ここで整備して、まともに入ってくると、私も何回かその堤防を見に行ったことがあるんですが、田子川のほうかふくらんで西側に少しずつ堤防の上に行くんですね。この図に整備されて東山に大雨が降れば、非常に危ないということで、地元の区長さんもこれからは非常に警戒しているわけです。

この200mぐらい下にケーブルテレビの災害対策の発信基地もあるので、こういういろいろな災害復旧だけじゃなくて対策しているんだということを言っているんですが、たまたまこのところを私は指摘したいんですが、こういうところも計画はあるんですか。少なくともこの合流部分の200mぐらいは、50cmかさ上げするとか、そういうことをするとそれなりに、気休めですけども対処できると思うんですね。

それと、信濃川治水対策ということで、水田の利用、この田子川の上流も北沢や南

沢があるのですが、ほぼ水田はなくなりましたが、ほかのところも転作や耕作放棄地があるんですが、遊水地を考える前に、こういう治水対策を建設事務所なり県で考える方策の一つとして、水田はきちんとつくろうと、耕作放棄地をつくらせないという方針も入れながら、それでも足りないということになれば遊水地とかそういうものを検討すればいいと思うのです。この田子川と滑津川との合流地点、こういうところの対策については計画に入っているのかどうか、それをお聞きしたいです。

●佐久建設事務所

田子川と滑津川の合流地点ということですが、令和元年度の台風により、護岸がずれ落ちているというところがありましたが、すべて補修が完了している状況です。

合流付近の田園地帯という状況が続いている断面については、この部分においては流下能力は足りていると判断していますので、今現在は災害復旧の原型復旧のみの対応としている状況です。

そして、上流側のこの写真にあるように人家が連担し、また両脇の家へ渡るための個人の橋がたくさんあるというような状況で、屈曲で狭隘な部分がありましたので、こういったところは当然流水があふれてしまったところから、断面が不足しているということで、これらの断面を広げる改良復旧を行っています。現在も常和地区については、早期に復旧できるように進めている状況です。

また、下流の方での要望等については、順次佐久市を通じて要望を受けて検討をしていきたいと思っています。

○住民D

越水しているというのは承知しているわけですか。もう何回もあるんですよ。

●佐久建設事務所

合流地点ですか。

○住民D

合流地点です。

●佐久市

すみません、承知している者がいなくて申し訳ないです。また、お話を聞きつつ、今後の対策としまして、また県のほうに各自治会から市を通じまして要望等をしていきたいと考えていますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

時間の都合もございます。他の方はいらっしゃいますか。残り1名の方よろしいですか。

○住民E

平賀・内山に住んでいる〇〇と申します。よろしくお願ひします。貴重な説明会を開催していただきありがとうございます。資料をいただいた3枚目のグーグルマップ

を見ながら、半分質問、半分要望になるのですが、このグーグルマップの地図を見て、遊水地計画の地域の面積というか大きさ、すごく周りの地域のものと比較して大変大きなものだなということを感じました。それです。ありがとうございます。

ちょうど真ん中の位置に遊水地の計画の大きさが示されていますが、私、これどれぐらいの大きさかなというのを、いわゆるよく遊水地の話になったときに、説明が難しかったんですけども、今回大変説明しやすくなったなと思ったのは、ぎりぎり画面で見えるか分かりませんが、右上に佐久総合病院の医療センターの建物と敷地があるんですね。その面積と今回の遊水地計画の面積が比較しやすい地図だなと思っていて、大変大きい計画なんだなということを感じました。つまり、大変広大な敷地の農地が遊水地に今後変わる可能性があるんだなと感じました。

ですので、やはり本当にこれは、一番切実なのは桜井地区の皆さんだと思うんですが、やはり佐久に住む者として大変大きな課題だと感じております。

それで、半分質問、半分要望的な話に変わりますが、ちょうどこの千曲川の対岸に杉の木貯水池というのがありまして、これはたしか東電が所有しているものだと思いますが、単純に考えて、どなたかから間接的に聞いたんですが、ここがいいじゃないかと、ちょうどこの滑津川と千曲川の合流する場所にあるので、そこが単純に素人的に考えるとため池にする候補地にいいんじゃないかというふうに思ったのですが、それは東電が所有していて東電が駄目だから駄目なんですという話があったと聞きました。

私は単純に、東電は駄目だということで終わって、逆に農地を持っている人たちやそこで生産している人たちが駄目だと言ってもこの計画は進められようとしているという中で、どうなのかなと思っているわけです。荒っぽい言い方をしますと、ここは私たち中部電力の電気で生活しているので、東電がここであつてもなという思いになるので、本当にここが適地なのかを改めて地元の皆さんや佐久市民に示していただきたいなと思っています。

そして、このスケジュール計画も資料の中にありました。令和6年までにということですが、これだけ大きな面積の計画のもので、やはり住民の合意というのを本当に丁寧に図って、国や県はそのスケジュールでやりたいという思い、気持ちは分かりますけれども、やはりこれだけ大きな計画ですから、住民の皆さんが納得する、そして生産者、土地所有者を含め、地域に住んでいる人を含めての合意と納得をもつての政策を進めてほしいと思います。

ほかの方も発言されていましたが、どうやって河川を整備して洪水を防ぐかという点で言いますと、千曲川そのものの浚渫、そして護岸整備、そして遊水地計画、それは賛成の立場なんですけど、どの場所にするかというところは本当にデリケートな問題だと思っています。

また、ちょっとここであまり議論がなかったのですが、田んぼダムということで、新潟県では今ある田んぼの土地を持っている人たちをお願いをして、雨のときにはその田んぼにいつもよりも水をたくさんためて、広い面積で田んぼがほぼ遊水地の機能を果たして、結果的に川に流れる水の量を減らすという工夫もやっているということです。私、そういったやり方をすれば、どこも農地をつぶさずにやっていけるのでは

ないかなど、そういった政策を、土地を持っている人たちに広く呼び掛けることも大事じゃないかと思いつながら、今日説明会に参加させていただきました。

いずれにしても、私は、東電を先に説得したほうがいいと思っています。いかがでしょうか。御質問に教えてください。お願いします。

●佐久建設事務所

田んぼダムといったものは、最近の流域全体での治水対策の一環で国の施策である流域治水の考え方にもあります。県では公共施設において雨水をためるといったタンクを設置するという事業も併せて行っている状況です。

最後の質問の東電の貯水池の関係です。東電にも以前打合せを行っており、貯水池がどういった形で治水に利用できるのかということについても話をしています。

もともと東電の貯水池は、発電用の施設であるため、常時水をためるものです。それは千曲川の水位が下がったときに貯水池の水を流し、直下にあります堰のところから水を確保して発電をおこなう機能となっています。

また、直上流のほうから取水をしていますが、川底から取水をしている構造になっていまして、河川の増水時に泥水のように濁った水を誘導してしまいますので、貯水池の中は土砂がたまってしまうこととなります。雨が降って水が濁っているという状況では取水を止めているとのことであり、遊水地とは全く逆の仕組みになっている構造です。

また、原発関係の電力不足を補う水力発電が大いに期待されているという状況の中で、東電としてもこの池を手放すということはできないであろうと思われます。また、貯水機能を一部負担していただくことはできるかという相談もさせていただきましたが、それは先ほどの説明のとおり、洪水時に水を一時的にため込むというような運用は洪水がある前に池の水を落としておかなければいけないということであり、洪水が空振りに終わることになった場合には、逆に少なくなってしまっていて、いざ千曲川の水が少なくなって発電ができないといった状況になると、これはまた営業補償の問題になり、利権が複雑に絡んでいる状況ですので、連携はうまくできないと感じています。

●佐久市

最前列の方。

○住民E

私は〇〇といいます。桜井に籍もありませんし、直接的には遊水地に関係ありませんが、ただ、私、義理の弟が谷川のそばに住んでおりまして、今、うちを取り壊して、現場の土場になって、土地を貸してくれと行って工事が終わるまでうちが建たないという、今度の台風19号については、私も大変興味を持っているわけですし、これからの減災と対策について非常に興味がある立場です。

私は、台風19号の被害を考えたときに、いろいろな点を考えて防災計画をつくる必要があるんじゃないかと考えているわけです。説明は分かりましたが、やはり遊水地ありきではなくて、千曲川の底をさらうと、これが一番ですよ。そう私は思うんです。

それともう一つ必要だと思っているのはダムを検証です。どういうダムかは別にしても、やはりダムを活用していく必要があるし、今度の19号台風でダムがどういう機能を果たしたのかという検証は、やはり県としてもすべきであるし、佐久市としてもすべきだと思っているわけです。

それと、これは全く千曲川水系の防災に関係ありませんが、避難するルート、これも考えないと、実際市長が言ったように、災害で亡くなる人や被害を受ける人をゼロにするという立場で言えば、やはり避難ルートをもう一度見直すと。片貝川が越水しそうだったら、私は小宮山というところに住んでいますが、泉小学校に行けないです。岸野小学校へ行けと言われるんですね。本当にそれがいいのかどうなのか。そういった点も含めて、今度の19号台風を総合的に検証して、遊水地が必要なのかどうかという結論を出していただきたいと。

例えば、百歩譲って遊水地がいいとしても、あれだけの広大な土地をどうやって管理するのかということも県としてはやはり説明すべきだと思うんです。今の千曲川の河川を見れば、木がいっぱい植わっていますね。生えてしまっています。これを何とかしないとやはり駄目だろうと思うし、それと同じように、遊水地もこれからどうなるのか、その管理をどうするのか、それだってきちんと説明すべきではないかと思っています。以上です。

#### ●後日回答

千曲川の河床掘削については、できるところを緊急対策プロジェクトで示し計画的に進めているところです。

現在のところ、ダムによる治水対策は考えてはいませんが、遊水地はある意味ダムに替わる機能を有しているものと思っています。

管理については、遊水地計画の合意が図られたところで決めていきたいと思っています。当然管理についてもやっていく計画を考えています。

#### ●佐久市

すみません。時間の都合もありますので、回答のほうはまた後日またホームページ等でいろいろ考えますので、まず質問だけお受けしたいと思います。

一番後ろの方。

#### ○住民F

岸野に住んでいます〇〇と申します。私、時間がないので端的にお話しますけれども、説明の中で、やはり佐久市の中につくる必要が本当にあるのかなという感じは受けるんですね、今までのお話を聞いていて。

というのは、先ほど質問でも出ていましたけれども、長野の越水、洪水の被害の問題でも、やはり80kmからある下流の問題も含めて、遊水地をつくるのであれば、端的に言って、越水あるいは堤防が切れる可能性のある近くにつくるというのが一番分かりやすいと思うんです。そこの水位がこれぐらいになったとき、これ以上になると危ないから、その水位を超えるときにその水をこっちへ流し込むというような考え方が

基本なんじゃないかという気がするんですね。

そうすると、ここから80kmからある千曲川水系の中で、どうしても佐久市につくる必要があるのかどうなのか、それはやはり今の説明では十分納得できるものではないなという気がいたします。

それから、遊水地自体がかなり急流地域ですから、水と同時に石や土砂が多量に流れ込むと思うんですが、それが流れ込んだ場合の貯水という機能が本当に活かせるのかどうかということです。雨が何日降るか分かりませんが、最初の1日目ではほとんど半分が埋まってしまったという状況になると、保水というのはそれほど機能しなくなってくるのではないかと気がしますので、そういった点での機能、遊水地をどういう機能を持たせたものにするのか。土砂をため込むところ、水をため込むところを分けるとか、何らかの工夫が必要なのではないかと。

それから三つ目に、やはり洪水になったときにはそういう形で水を防ぐということが大事ですが、施設はずっとあるわけです。施設がつけられるとその近くの人たちがどう施設を見るか、生活に馴染んでいくかという問題があると思うんです。例えば、それがジメジメした湿地帯として絶えず保管されるのか、あるいは水をきれいにはいて、ある意味では理想的なのはグラウンドかなにかで野球ができるかというようになるのか。そういったような景観によっても、地域住民にとってはやはり違うんだと思うんですね。そういった点の構想等も含めて、この場で回答を求めることはしませんが、また今日のこういった意見をまとめて出させていただく機会もあるんだと思いますので、そういうときに、こういった意見をまとめた形で文書で出させていただければいいなと思っていますので、ぜひ、そういった点も、どういうふうと考えていくのかをお聞かせ願いたいと思います。

#### ●後日回答

佐久市内で行っています、滑津川、田子川、谷川の断面改幅による増量分について下流域への負担をこれ以上増やさないことがこれからの流域全体で行う治水だと思っています。上流の佐久で増やす分は佐久で一時的に貯留するという考えをご理解していただきたい。

遊水地から入る越流堤は洪水時の上面の方から横へ越流させて遊水地へ入れ込む形ですので、石だとかは入りづらい構造としています。

遊水地内の利用については、遊水地計画の合意が得られたところで佐久市や、地域住民の意見をお聞きしながら決めていきたいと思っています。

#### ●佐久市

ありがとうございます。

では、最後に。

#### ○住民G

2回目のことで申し訳ないんですが、今日初めて構造について見ました。御影橋の下から取り入れて中部横断の手前で出すということで、私はこの刈谷田川を見ました

けれども、そこは余水吐じゃなくて配水樋門だったんですね。この構造を見ると、越流堤からは行って仕切堤に行って余水吐とずっと流れていくということになると、ただ川の流れを変えただけの話ですね。

御影橋の下のところはT.P. 652と書いてあって、田んぼがその左側が650ですから、川より田んぼのほうが低いということになるわけです。だから、全くこれは堤防を切ってしまうということですね。その先が651ですから、そうすると、そこから入ってもすごい洪水がそのまま北桜井に真っ直ぐ行くと思います。

天端のところに5mの道路をつくるとありますが、5mぐらいは簡単に越しますね、あの洪水は。傾斜がきついわけですから、150分の1ですから。刈谷田川なんかは1,000分の1ですよ。全然します。ここに1m、2m石がゴロゴロ入ってくれば、これはただ川の流れを変えただけということで、全く無意味な遊水地ということが一つです。

もう一つは、皆さんは全然やらないけれども、田んぼダムというのを調べました。佐久市は農業委員会の資料によりますと、3,780haの水田があるんですね、3,780ha。これは農業委員会の資料で、令和3年度の活動計画に書いてあります。ここに10センチ、みんなが水尻を止めてもらおうと、台風のときは、というふうにして止めていただければ、378万tの水がたまるんですね。そうすれば支流の氾濫も防げますし、遊水地の3倍の水が佐久市中の田んぼにたまるわけです。10cm尻水口を止めてもらえばいいわけです。これをみんなに協力してもらおう。そういうことを考えたほうがずっといいじゃないですか。お金もかからない。みんなの努力でできるわけですから。以上2点です。

#### ●後日回答

遊水地は千曲川の水位が所定のところまで上がったところでピークをカットし、総量110万 $m^3$ を貯留させる施設です。

これは計画規模降雨の100年に1度に対応するもので、この時点では余水吐から出ることなく100万 $m^3$ が貯留できるものと考えています。それ以上の規模の雨が降った場合には自然に排出できるように余水吐を設けているものです。

田んぼダムの活用は新潟県などで検討が進んでいるときいています。いずれにせよ、田んぼ所有者との揚力と各々の地形、地域の気候等まだまだ沢山の課題があるものと聞いています。今の時点では遊水地にかわる施設としては検討できない状況です。

#### ●佐久市

ありがとうございます。今までいただきました意見、回答できていないものにつきましては、また、あしたからの説明会、昨日の説明会にありました質問内容につきましては、ホームページ等で公表できる形を考えてまいりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

長い間ありがとうございました。以上で閉会とさせていただきます。よろしくお願ひいたします。

(了)

「令和3年9月 佐久市桜井地区で計画している遊水地の住民説明会」議事録

令和3年9月29日（水） 中桜井公会場1日目A（午後4時～）

●佐久市

続きまして、質疑に入りたいと思います。質疑に当たりましては挙手をしていただきまして、こちらから指名させていただきます。質問に当たりましてはマイクをお持ちしますので、まず、お名前を言っていただき、その後質問をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○質問者A

〇〇と申します。メリットとデメリットの関係で、今、建設事務所のほうからはメリットだけを強調されて、災害があったらこうなるということで、本当に災害というのはそういうものじゃなくて、どこから災害が来るか分からない。都合のいい災害はない。火曜日の新聞を見ると、北桜井の住民の人、全員ではないけれども、抵抗感があると出ています。住民第一ということで、北桜井の本家本元の反対という意見があるらしいんですね、これを見ると。それで、建設ありき、絶対やるということだけはやめてもらいたいと。

メリットとデメリットがあって、1個は景観。景観がすごく悪くなる。あともう一個は管理の問題。管理なんかできっこない。今まで管理なんかちよどこにできないものが、管理なんかできるわけがない。木だらけ。外来獣、外来植物がガンガン。花粉はガンガンで、俺の鼻なんかどうしようもねえって話でね、あとは北桜井のほうの遊水地の外側をもし水が回ってきた場合には、水死体を見ることになる。調子のいいような工事をやった場合に、もし外側を回ったら大変なことになると思います。

鳥獣害、あと外側を回った場合、そう考えた場合に、もしどうしてもやるんだったら、百々川（ずうずうがわ）に土手をつくれればいい話。過去の災害は、その遊水地よりも全部上だから、上。下じゃない。大体ね。今、農業者も優良農業者がやっているわけだ、優良農業者が。それは土手も刈ってくれて、建設事務所はそんなことは全然やらないけど、〇〇さんという人がちゃんとやってくれて、たまたま草刈りまでやって管理してくれている人、農業者が借金だらけでやっているものを取り上げてしまうという問題があるんですね。

1個の考え方とすれば、前回のときにも水の関係で、長野地区のほうだと思っんですよ。なんだかんだこんなことをやっても。松代の芋、あと長野のリンゴ、あそこをぶつつぶしてでっかくつくればいいという話。こんなところも農業をやっているんだから、どっちをつぶすかといったら向こうをつぶしてもらいたい。

それとあともう一点は、買収する、買収すると言っているけれども、金額が出ていない。俺はこの間まで農業委員をやっていて、相場ね、一等地でも3,000円から5,000円。前に言ったように上乗せすると言ったって1,000円かなんぼね。それで、終活で田んぼを貸して跡継ぎがない、売りたいという人は別なんだけど、これからの農業として代をつなげていこうという人には、とてもじゃないけど金額としてやっていられないと。金額も乗せないで売るといったら、じゃあこれですよ。あとは「皆さんのためだから、あとは飲んでください、お願いします」、で、二束三文じゃ売れない。最初から金額を出すのが当

たり前。大体その辺を買収するとき、公の場合買収するということを決めておいて、値段を出してあとは押し倒し。これが相場。だから、100軒ぐらいいるんだけど、その100軒は押し倒されて終わり。そういう話で、まず最初に金額も出すべきだと思います。

とにかく、景観、管理、その辺のところは、もう台風19号の前に、俺は女房と堰堤の下に前回も行ったんですけども、木がボーボーと繁っていて森になっていて、これは台風が来れば下流のほうは大災害になるなど言ったら、台風が来たらきれいになっているわけだ。案の定、もう下のほうは別所線から何から流されちゃって、俺が思ったとおりになっている。管理も何もできないのにこんないいやつを出したって、とてもじゃないけど信用できない。だから、その辺のところは私の考えです。

ただ、政治利用で市長か何かの公約かもしれないけど、そんなものでガタガタこんなことをやられたら、とてもじゃないが、災害ありきなんだけれども、予定どおりの災害にはならないと俺は思います。以上。

#### ●佐久建設事務所

まず1点、景観の問題ですが現在構造物の全くない人家の近くにおいて、高さ6mぐらいの土手ができるということで、当然、景観も変わってきてしまうということはどうしても避けきれないところです。

堤防における管理という話がございました。今回私どもが考えております周囲堤防、堤防となる土手の部分については、通常2割という勾配でつくるのですが、ここでは3割ということで3m行ったところ1m上がるという非常に緩い穏やかな勾配を採用しており、乗用の草刈機だとかそういった形で機械的に管理できるようにと考えています。

2点目の遊水地の外側を水が回ったという御心配ですが、こちらにつきましては、百々川の検討をさせていただいたときに、百々川において、この周囲堤をつくったときに遮られる全ての水を想定いたしまして、その水が飲み込める断面を検討しています。そしてさらに浸水想定シミュレーションをさせていただいています。これは、昭和34年の台風を想定してまして、100年に1度の規模の大雨になります。左側に示しているのがそれになります。この図は公表されています。ただし公表されているものにはバツ印がないものです。右側の図ですが、現在の状況で、そこに遊水地をつくったときにどうなるかというのを、全く同じ条件で、遊水地の高さだけを水色で落とした状況でのシミュレーションしたものです。そしてさらに上流側の堤防を強化してのシミュレーションをしたところ、周囲堤の周りを水が走るということはないということがここで確認されています。これは先程も申し上げましたが、100年に1度の雨に対してということで、私どもが考えたところです。

3点目、松代の芋やリンゴという話もございました。こちらについては、ほとんどが高水敷という河川の中の部分でございまして、当然、水が増えればそこが浸かってしまうということで、この8月にも浸かっているというニュースがされていまして。これはあくまでも河川の中の話ということです。こういった長野から飯山までにかけての区間というのは、ここで示します河道掘削や堤防補強など、場所毎でできることをそれぞれが計画を持って進めているという状況です。

当然、飯山にも中野にも、そして千曲市にも、ここで示します青色がかかっていますが、遊水地というものを設置してまいります。それぞれの遊水地でためていくことにより、た

だ1個だけをつくって大量の雨を防ぐということではできませんので、それぞれが分担して、例えば立ヶ花の狭い狭隘なところもそうですが、そういった場所を掘削するなど、いろいろな形でそれぞれが持ち寄って、令和元年東日本台風規模の台風が来たときには、そこらじゅうであふれないようにしようというのがプロジェクトの趣旨です。

私どものこの佐久地域、千曲川上流域においても、田子川や谷川や滑津川で改修したことによって増えてしまう、そのまま下流に流さないようにする、下流に負担をかけないようにするという意味です。そういったことで上流地域で増えた量をためる遊水地を設置しなければいけないということで、上流で拡幅したら上流でできることをやっていかなければ、下流が溢れてしまうといったことがないように、流域全体で今後の大きな災害から守っていかなければ、ということで遊水地を計画しているところです。

今回の説明会の主旨は、前回12月に説明会の際に、概ねこの範囲を示して御説明させていただいたところです。そして、形を示さないと判断できないという御意見も多く、そしてまた安全の問題についても御意見をたくさんいただいたという中で、形をしっかりと示すということでボーリング調査、地下水を確認する調査だとか、模型実験といったような設計を進めさせていただいて、本日遊水地の構造としてお示しさせていただいたという段階です。皆様方には、これを見ていただいてたくさんの御意見をいただきたいと思っています。

もう一点、最後にございました用地買収の金額の話です。当然ながら、こういった計画が、皆様方住民の合意ができない限りは進めることはできません。その合意ができる段階になれば金額の提示をしていかなければいけないと思っています。まずは、この計画を皆さんにお示しして御意見をいただきたいというところの段階ですので、御理解いただきたいと思います。また、価格については現時点での正当な価格をきちんと算出していくという形になっていますので、その時点での単価を、きちんと基準に基づき評価をさせていただきますので、よろしくお願ひします。

●佐久市

次の方はいらっしゃいますでしょうか。  
どうぞ。

○質問者B

御苦労さまです。私は下桜井の〇〇と申します。今日のこの遊水地計画について、概要についてはほぼ理解できました。私も、令和元年の台風のとくに区の役員をやっております、片貝川の氾濫だとか、あるいは千曲川の決壊の問題なんかも対応させていただいたわけですが、そういうことも含めて、今回の計画が千曲川全体の水系を見直すという、確かに部分部分ではいろいろな復旧工事、あるいは対策があると思いますけれども、全体をどうするかという大きな観点からの対策だという取組については、そうあるべきだと思っています。

そういう中で問題は、先ほど言ったように、そういう意味では、この前最初の説明があったときには遊水地以前にやるべきことがあるのではないかという意見も申し上げて、例えば、護岸の強化とか浚渫だとか、こういうものをやるべきではないかと、こういうこと

を私も申し上げたのですが、それについては、今順次進められておるということでよかったなとは思っております。

そういう観点からいって、遊水地という問題についてもそれなりの効果というのも私もいろいろ調べてみまして、それはそれなりの効果があるなということには理解しました。今回この遊水地、桜井の遊水地、ほかのところの遊水地もそうなんでしょうけれども、あくまでも前提は、この前、令和元年度の19号台風当時の雨量だとかそういうものを前提にして、それに耐えられるようなものということなんですね。

そういう点からいきますと、例えば、それ以上の今後気象変動が考えられますね。さらに今言ったように線状降雨帯という問題も出てきますし、そういうようなことも含めると、それはまたちょっと別だという話になってしまうのかな。取りあえずは19号程度のものを想定しているということですね。

そういう中で、この桜井地区の遊水地の効果というのが、千曲川の本川の水位を下げるという、こういう一つの目的でありますけれども、これは素人考えなんですけれども、これをやることによって、目に見えるような効果というのは説明できるんでしょうか。例えば、何センチぐらい下げられるのか。なかなか計算上では出るかもしれないけれども、目に見える効果が説明できるのかどうか。もし分かれば、このぐらいの効果がありますよと、こういうようなことを説明いただければ、我々もその効果に寄与できるのかと、こういうような気持ちにもなるわけです。

遊水地そのものは110万㎡ですね。これが満水になるには、越流堤の段差にもよるでしょうけれども、どのぐらいの時間を稼げるんですか。例えば、この近くで堤防が越流しそうだと、そのときにこの遊水地の効果というのは満水でどの程度稼げるのか。流れ込む量によっても違うということですかね。一般的には2時間とか3時間ぐらい持ちこたえて、その間に雨がやんで決壊が免れたということもお聞きするんですが、そういうような想定時間はあるんですか。それが一つです。

それから、上から入れて下から出るわけですが、満杯になった場合、さらに千曲川本流の流量が減らないときは、遊水地からの越流はないんですか。部落の中に。それに耐えられるような高さをつくるということですか。いわゆる周囲堤ですね。当面は、例えば3時間ぐらいでいったんとまって、それから徐々に台風が収まって静かになって千曲川の水位が下がって流れ出していくというのは一般的には想像がつくんですけども、それが長引いた場合には、オーバーフローするような危険はないかどうかということが一つ。

もう一つは、先ほども説明にありましたけれども、確かにこの遊水地をつくることによって、御影橋で壁ができるわけですから、その上流で決壊したり破堤すれば、それが堤防になって部落のほうに流れ込むということは一般的には考えられるのですが、それに耐えられるような堤防を強化するという発言でした。これは100パーセントということがないという堤防であってほしいと思います。

私もその辺をちょっと歩いてみたのですが、確かに御影橋から浅蓼大橋までを強化するわけですね。その上の砂利を砕石する岡村骨材さん、あの辺の堤防の護岸が低いように思うんですけども、あそこからの越流はないんでしょうか。浅蓼大橋よりちょっと上になりますね。あそこを見ますと、かなり護岸の堤防が低いですね。もしやるとすれば、そこまで考える必要があるのではないかと思います。その辺は調査をされているかと思

ますけれども、私がちょっと歩いた範囲ではそんなようなことを感じたわけです。

そういうことで、今日の説明で大体の計画は分かりましたけれども、今言った2点、満水時どうかということと効果、それから今言った上のほうの堤防の護岸をさらに強化する必要がないかどうか。この辺についてお聞きしたいと思います。

●佐久建設事務所

最初の1点目、千曲川の水位をどれぐらい下げることがあるのかということですが、この遊水地は水位を下げるという意味よりも、下流側へ負担をかけない、水位を上げさせないという、上流域で収めたいという目的です。

当然、立ヶ花とか決壊した長野市の穂保などに行きますと、川の断面がすごく違うのは皆さんも御承知のとおりだと思います。また、松本から流れてきます犀川が合流しまして、それまでに上田辺りの支川や各地域からたくさんの大きな河川が流入しておりますので、規模が格段に違ってきます。そういったところと、こちらの断面とは全然比べものにならない状況です。そしてこの110万 $\text{m}^3$ ためるというのは、そういったところに110万 $\text{m}^3$ を上乗せしないためのものです。

下流に行って穂保のところでは何センチ軽減できるかという観点ではなく上乗せさせない、この上流域の佐久では乗せない、ほかの地域でも乗せない、皆さんがそれぞれ持ち合いながら、少しでも負担を軽減させていくということによって、穂保のところ、穂保以外でも決壊しているところがありますが、そういったところでもあふれさせないというのが、このプロジェクトの主旨の一つです。

そして、どのぐらいの時間を稼げるのかという話です。これは、令和元年の台風のときのデータを基に、一番降った降雨における流量をピークカットしたいということで今回設定した110万 $\text{m}^3$ にして、そのピークをカットしていける時間というのは約2時間ぐらいという計算ができています。

○質問者B

2時間ぐらいでいっぱいになりますか。

●佐久建設事務所

今のところはいっぱいになるということです。

○質問者B

遊水地ですね。

●佐久建設事務所

そうです。ハイドログラフというものをつくって、このトップのところをカットすると、それがまさに2時間ぐらいということです。

○質問者B

180mの越流堤、そこから流れ込む量で約2時間ぐらいでいっぱいになると。

●佐久建設事務所

越流堤の幅や高さについては、これから模型実験というものをやらないと数値が出てきません。そういったものもこれから進めていかないと、正確なものは出ないという状況です。

そして2点目、周囲堤からの越水がないかという話です。構造的なものを見ていただきますと、こちらが千曲川本川で、上流側に越流堤という飲み口をつくります。これがある一定の高さになりますと横越流、上から少しずつ流れてくるという状況になります。いったんこのエリアAという遊水地の方が、一杯になると仕切堤というこの部分の高さでもってエリアBの方に入っていく。そしてこのエリアBが一杯になりますと、余水吐きで排出されますので、水位はそれ以上、上がらないという構造になっています。

こちらにあります山側の周囲堤というものは、水位以上の高さを持っていますので、さらにこれを越えるということはない構造としています。

また、模型実験で全部の形状を再現して、60分の1の縮尺模型を実際につくり、そこにこの本川の河道と同じ形状のものを再現させます。そして水を流してその水がどういった流れを示すのかを検証していきます。それによってこの堤防が大丈夫なのかどうかも含めた安全性を検証していきたいと思っています。

○質問者B

それは分かるんですが、いわゆる周囲堤の高さはあくまでも本堤防よりは高くなるわけですね。問題は、千曲川本川の量が台風19号ぐらいのときの量を想定しているんですけれども、それ以上増えた場合にはどうかということなんですが。

●佐久建設事務所

ハザードマップに見るような1000年に1度という想定最大というものがありますが、この時点になりますと沿川全部がほとんど浸水します。

○質問者B

あそこだけの問題じゃなくてね。

●佐久建設事務所

この堤防より上の水位になっていますので、これがどうのこうのというレベルではなくなっているかと思えます。逆にいうと、これがあっても変わらない、これがあってもどうにもならない状況かと思えます。ハザードマップの1000年に1度という大きな浸水想定というのが、もしこういうことがあったときにどこが安全なのか、どこに避難すればいいのかを考えて逃げてくださいというためのものでして、これをハード的に整備するというのは、とてもできないということをお認識していただきたいと思っています。

○質問者B

分かりました。

●佐久建設事務所

浅蓼大橋の上流の話ですが、これも100年に1度の計画規模降雨が昭和34年にありましたので比較的現実的だと思いますが、この浸水状況を見ますと、この辺の低いところは、いったん沢というか、切れているところで浸水が終わっていますので、下流までの影響がない状態になっています。

○質問者B

霞堤みたいになっていますね。なっているから大丈夫ということですか。

●佐久建設事務所

大丈夫というか、こちら側への影響は今のところはないだろうと言えらるかと思えます。

ただ、先ほどお話ししました、御影橋から上流の部分というのは赤くなっていますので、ここが決壊したのがここにたまとたまった影響がこの黄色いところにも影響しているんじゃないかと思われます。これは、標高の低いところに当然水は集まるので、メッシュで地形標高をプロットして、そこへ水を流しているというシミュレーションです。機械的なんですが、シミュレーションというのはそういった形で検証したもので、その結果が浸水想定図です。

○質問者B

では、そこを十分検討されて、ここは大丈夫だと判断されたということですね。浅蓼大橋の少し上ですね。ここは例えば補強工事はしなくてもいいという判断をされたということですか。

●佐久建設事務所

今回のこの部分についての影響はないだろうということで、当然補強工事は補強工事で傷んだ護岸は当然直していきます。

○質問者B

傷んだぐらいじゃなくて、あそこは低くなるからこちらへは越流しないということではないんですね。

●佐久建設事務所

はい、下流側へはいきません。ここで終わってしまっている、切れているというのはその意味です。

○質問者B

それが遊水地のほうへ流れてこなければいいわけですね。

●佐久建設事務所

今のところ、遊水地計画としては問題はないだろうと判断しています。

●佐久市

時間の都合もございますが、あと1人ぐらいいかがでしょうか。

○質問者C

遊水地自体は反対ではないんですけども、話を聞くと、この部分を土を取って堤防にして、そこに遊水地をつくるという話なんですけれども、現状そのままですと、ただ、穴を掘って周りにその土を堤防としてつくって、それだけですか。そうすると、草がボーボーで木が生えたりということで、それをこれだけの広大な土地を管理するのは週に一遍ぐらい草を刈ってもすぐ伸びてきますので、例えばコンクリートを打つとか、大阪ではないんですが、何かほかの施設にするとかそういう計画はまるきりないということですか。ただ単純に穴を掘って池にするということでしょうか。

●佐久建設事務所

この遊水地内の平地をどうするかという話は12月の説明会にも質問をいただいています。ただ、この遊水地の計画をまず皆様方に合意をいただかないと、どういった管理があるのだということまで示すことは、もう決まっていることなのかと不快感を示される地権者の方もいまして、まずは遊水地の設置について、合意をいただくのが先だと思っています。

合意が得られましたら、平地を遊ばせるというのは全然考えていませんので、地区の皆さん方の要望も聞いていかなければいけないと思っていますし、そしてまた佐久市との連携で、佐久市の方でこういったものをつくりたいとか、使いたいとか、そういった話があれば一緒に取り込みながら、有効利用できる施設にしていかなければいけないと思っています。そして当然その中はしっかり管理していかなければいけないと思っています。

○質問者C

考えてはいないということですか。

●佐久建設事務所

考えるのですが、まずは御理解をいただいてからということですか。

○質問者C

あと実際に遊水地をつくって水が流れ込む機会はどのぐらいを考えていますか。例えば1年に1回は流れ込むとか、あるいは2年に1回ぐらいか、5年に1回ぐらいか。

●佐久建設事務所

それはこれから安全できちんと取れる越流堤の高さと幅を実験で決めていきますので、そうすると、何年確率で何年に1度の割合で入るものだろうとか、言えるかと思います。

○質問者D

例えば、今言ったように、平時の遊水地の管理というのが非常に大変だというのは我々区民はみんな分かるわけです。その有効活用を考えた時に、例えば運動公園をつくる、あるいはマレット場をつくる、あるいは公園をつくるというふうなことを考えても、例えば、毎年流れ込むような状況ではなかなか難しいし、あるいは5年、10年、20年ぐらいいはないんだということになればそういう整備もいいだろうし、その辺は我々もどうしたらいいかは分からないんですけども。

皆さんが考えている、例えば、越流堤の高さを設計するときに、どの程度のものだったら流れ込むという頻度はある程度分かりますよね。例えば、19号の台風のときだったら確実にあの量だったら流れ込むように設計するんですか。

●佐久建設事務所

当然東日本台風レベルは入り込むようになります。

○質問者D

あの程度のものだったら流れ込むようになると、そういう越流堤の設計ということになりますね。

●佐久建設事務所

エリアAという上流側の遊水地とエリアBという形で分けておりますので、頻度でいえばエリアAのほうが当然頻度が高い。それを越えるような雨になってくればエリアBに入ってくるので、頻度の高さが違います。そういったものを構造的にはっきりしていくのがこれからのことだと思っています。

○質問者D)

そうすると、何年に1回というのは一概に言えないような。

●佐久建設事務所

実験をきちんとしないと分からない、はっきりしたことは今言えないという状況です。

●佐久市

皆様、ありがとうございました。他の説明会等がまだございます。そのときに出了た質問等につきましては、また皆さんに分かる形で御案内させていただければと考えておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

また、ほかに質問等ございましたら、アンケートの次に質問をいただければ、それについても回答を考えておりますのでよろしくお願ひしたいと思ひます。

以上で、本日の説明会を閉じさせていただきます。ありがとうございました。

(了)

「令和 3 年 9 月 佐久市桜井地区で計画している遊水地の住民説明会」議事録

令和 3 年 9 月 29 日（水） 中桜井公会場 1 日目 B（午後 7 時～）

●佐久市

それでは、質疑に入らせていただきます。質疑に当たりましては挙手をしていただきまして、こちらから指名させていただきます。

また、質問に当たりましてはマイクをお持ちいたしますので、まず、名前を言っていたき、その後質問をお願いしたいと思います。よろしくお願ひいたします。

それでは受け付けたいと思います。挙手をお願いいたします。どうぞ。

○住民A

上桜井区の〇〇と申します。この計画について懸念を持ちまして、信濃毎日新聞に私は投書をしまして、5月の末に「建設標」に掲載されておりました。そこで、残念ながら字数制限がありまして、どうしても載せてほしかったのですがカットされてしまったのが、19号台風在先立つ2年前の、先ほど映像の中でも出てきましたけれども、2017年10月の台風21号の御影橋の上流左岸250mの洗掘の問題がカットされてしまいました。その状況について、ぜひ写真でもって示してほしいということで県にお願いをして、今回このように見せていただいております。

さらに、僅かに19号の台風を挟んで先月にまた、その復旧された下流側が洗掘されているということで、僅か4年ぐらいの間にこういった事例が生じているということは、大変重大な問題だと思っています。

東電の調整池の取水口の位置だとかいろいろなことから考えますと、大きな意味で、たぶん少なくとも昭和の初めの頃からは、河道はほとんど変わっていないと思われまふ。今後もやはり同じようなところがアタックポイントになっていくことは想像に難くないです。

そういったことを考えると、今回の遊水地の付帯工事としてそこを強化していただくというのは当然のことなんだけれども、今後に当たって、100年単位でもって考えていったときに、果たしてインフラの整備というもの、維持管理がきちんとして行われていく環境なのかどうかということを考えますと、甚だ不安があります。

ここがもし破れるようなことがあれば、3次元の画像でもってお分かりのように、遊水地の周囲堤をアタックする形で、その周囲堤が導く形で北桜井の集落が、流速が上がる形でこの影響を受けるようなことが想定されます。そういったときは、本当に壊滅的な被害が考えられます。その点については、やはり引き続き不安があるということの一つには申し述べたいです。

ただ、私、それはこの間も申し上げてきたことです。実は、今回ちょっと思うのは、私自身は、遊水地は私たちが親しんだ地形の中からは非常に広大なイメージがあったんだけど、湛水する容量を考えてみますと、110万 $\text{m}^3$ というのは、大きな容積を例えるのに東京ドーム何杯分ですというのがありますね。そういったところでどうでしょうか。東京ドームが124万 $\text{m}^3$ と公示されています。ということは、東京ドームにも満たない量が湛水されてしまえば、その後は残念ながら機能しないわけです。

私、この遊水地の発想の肝というのは、要するに改良復旧を急いでほしい、改良復旧に伴う流量、県や市長の説明にあったとおり、ピークをカットしていかなければいけない。それを地元の責任において、ある意味上流の責任においてやっていきたいという発想は、それは論理としては分かります。しかし、こういう計画というのは保全の対象はもっと下流のほうの善光寺平だとかああいうところが実質的な保全対象になるわけです。例の長沼地区とかああいったところですね。

私、ちょっと調べてみたら、いわゆる千曲川の洪水の歴史の中では、象徴的な1742年の戌の満水のときの洪水量というのは、国交省の千曲川河川事務所が推定しています。それだと千曲市の大正橋から長野市の立ヶ花付近までの流量の氾濫量は3億1,060万tと書かれていました。これは信大の研究論文でもほぼ同量で、信大のほうがもうちょっと少ないですけれども、ということは、桜井の遊水地を300個ぐらいつくらないと駄目だという話になるわけです。

今の令和の時代に全部が氾濫するとは思いませんけれども、少なくともそういった量が増えるということは、1000年のリスクで考えたときは考えなきゃいけないことです。ということは、はっきり言ってスズメの涙とは言わないけれども、本当に寄与率というのは、残念ながらこれをつくったとしても低いということを考えなければいけないと思います。もうちょっと違った発想が必要だということを、その数字は示唆するんじゃないでしょうか。

そこで、時間もあまりないので私ばかりしゃべれないので一つ考えてほしい提案ですが、この県の流域治水対策の説明の中自体にも出てきますけれども、田んぼダムの取組ですね。これは説明の最初のところにも出ているのですが、長野県では、私が調べてみてもあまり具体化されているのは確認して聞きません。佐久市のホームページから農地や水田面積を調べてみましたら、佐久市の田の耕地面積が3,780ha、令和2年、市のホームページからです。その3分の1の面積、仮にですよ、田んぼで、こういう洪水が想定されるときに10cm湛水増を行う、調節すると計算すると、1,260haに対して126万tで、桜井遊水地の1.15倍、それだけで出てしまうんですね。

現に田んぼダムということについては、県のこの説明の中に載ってくる裏には、新潟県でとても精力的に取り組まれているということがあります。新潟県のホームページを見ると、非常に力が入った形で、こんな形できれいにできます。確かに単位面積だとかそういうことからすれば、新潟県と長野県では有意性で違う面があるかもしれないのですが、長野県においても、やはり面で考えていくということを考えましたら、この田んぼダムをもっと具体的に政策化をして、計算をして、あるいは計画的にプロジェクトを立ててみる。つまり土木行政だけではなくて農政と一体となってやるという考え方が重要ではないかと思えます。

遊水地の水は外水ですから、砂混じりの水が入り込みます。でも田んぼダムは天水をためるわけですので、排水口を調節することによって、それこそ流量を抑えたり、本川に流れ込んでいく水を抑えたり、ピークをカットしたりするそういう機能ですね。だから、そういう意味では農地の保全にもつながりますし、桜井の近辺でも基盤整備以降用水路が荒れてしまっているところがあって、放置できない状態にあります。そういったことと併せて取り組んでいけば、遊水地ができたからといって用水路の状態が放置されてしまうわけ

ですから、そこはいずれ取り組まなければいけない。しかし、そこをもし取り組んでいけば、二つながらに効果があるのではないかと、そのように考えます。

田んぼダムの場合、地域の内水氾濫に対しても効果が期待できます。そうした意味で、私は田んぼダムの政策化を、県も、やはり市も取り組んでいただきたい。そういったことの中で、この桜井遊水地についても見直しをしていただきたいという考えです。以上です。

●佐久建設事務所

貴重な御意見ありがとうございました。参考にさせていただきます。

●佐久市

それでは次の方、お願いします。

3 列目の方。

○住民B

中桜井の公民館の〇〇と申します。3 ページのレジュメですが、整備前と整備後のところを出してもらっていいですか。遊水地のほうに入ってくる110万m<sup>3</sup>、関連して滑津川が910m<sup>3</sup>、これは毎秒ということですね。整備前と整備後で、いわゆる滑津川の赤くなっていますが、その量が貯水池に入ってくる。田子川のほうも、その面積で模式的に示されたところも入ってくる。谷川のほうも入れてくると、遊水地の3分の1から4分の幾つぐらいまで入ってくると、そう考えてよろしいのでしょうか。いわゆるその算出、整備前のもとの整備後のその関連をもう少し説明していただきたいと思って御質問させていただきました。

●佐久建設事務所

こちらにあります滑津川、毎秒650tとあります。改良すると断面が広がるので910t/sとなりますが、単純にこの差を引くと260t/sぐらいの断面が広くなるといった解釈になりますが、これを260t/sここで（桜井遊水地）必要なのではないかと考えられますが、それは少し違います、説明が少し複雑になりますが、260t/sの流量が必要ではなくて、洪水にはピークがあり、この一番増えたところでは河川の容量が不足にあふれてしまうため、この時の流量を減らしたい。ピーク分をこちらにためたいということで、そのピークをどれだけカットすれば良いかを計算すると、110万 m<sup>3</sup>の容量があれば、こちらのピーク分を補えることが計算で出てきています。どうしても洪水発生モデルは、各々の流域で集まってくる水の量も違うし、長さも違う、入ってくる時間も違うため、そうしたことを考慮して一番ピークになったときに、その山の部分をここの貯水池でためて取り除き、その後雨が収まってくると、あとはゆっくり流す、そのピーク分をカットしたいということで貯水池をつくりたいと考えています。

○住民B

なぜその質問をさせてもらったかという、私は消防をやっている、平成十何年頃白田にいたんです。雨川の氾濫であのとき床上60cmでした。あの頃消防で回ってその堤防に立っていたら、下1 mまで来ていたんです。おととしの19号のときは、回ってみても

そんなに来ていなかったんです。あのときは、かなりの雨が連続して降っていて、その雨の降り方とか、気象条件によって流れの勢いが違ってくるとい、そういうのを体験したんです。

だから、いろいろなところでいろいろなことが起きているときだけでも、全体的な流れのピークというのが、時系列でやっていかないと本当に分からないということで、その模式的なものがイメージできなかったので質問させていただきました。以上です。

●佐久市

では、次の方どうぞ。

○住民C

下桜井の〇〇と申します。百々川（ずうずうがわ）を利用しまして魚を飼っているんですけども、夕立なんかでも大雨が降ったりすると池が水をかぶってしまい、下のほうから、具体的には今岡から千曲川に抜ける橋ですが、そこでもう水が飲めなくて、その上にある池が水をかぶってしまうような状況があります。

これで百々川を整備されて、千曲川へ抜ける川がなくなってくると、完全に水をかぶってしまうんですが、この計画ですと賛成できないのがあります。横断道の下です。

●佐久建設事務所

片貝川と合流する手前ですか。

○住民C

手前になります。

【マイクなし】少し低いところにあるものですから。道路の下を通っている橋の構造といますか、それが四角いボックス状になって、そこで水が止まって抜けていく量が決まっているものですから。さっきの話と同じで。

●佐久建設事務所

それは確認させてください。

●佐久市

それでは、次の方いらっしゃいますか。せっかくの機会ですので、ありましたら、まだお時間が15分ほどありますので。

○住民D

下桜井の〇〇といいます。よろしくお願ひします。賛成反対ということではなくて、先ほどスライドの映像でこの池をつくるだろうけれども、つくりっ放しにならないかなと。これをつくっておけば安心だというふうに考えるのは、ちょっと怖いなと思っています。

というのは、千曲川の氾濫を抑えるために、特にこの上流地域の氾濫を抑えるために、この遊水地だけで本当にまかなえるのでしょうかと、先ほど質問された方もすごく詳しく

新潟県の事例などをおっしゃっていましたが、その回答のないまま今この話になっていすけれども、これをつくって、本当に全てがまかなえるとはとても思えない。

だって、想像を絶する台風が来たり、水害が来たり、地震が来たり、この地域では浅間山の噴火の心配もあつたりというのがあるので、これをやっていたら大丈夫と、一部は大丈夫かもしれませんが、本当にいいのかなと、もっと違うこといっぱい考えればいいんじゃないのと。

浚渫の話がさっき出ていましたけれども、浚渫を徹底的にやったら110万tぐらいの流量を止めることはできるんじゃないんですか。さっき1億なんぼとおっしゃっていましたが、この遊水地で幾らかかるのか知りませんが、本当にやるのは河川を深く掘り下げればいいのかと、私は単純に思っています。

もう一点だけすみません。その遊水地、先ほど最後の図にありましたけれども、大阪のほうの寝屋川の事例でありましたけれども、利用価値というのはあるんでしょうか。何か中につくるんでしょうか。それとも草ボーボーでほったらかしになるんでしょうか。それは非常に心配します。千曲川の今の状態でもいろんな木々がボーボーに生えて、たまに伐採などされているようですけれども、そんなことでつくったら終わり、ほったらかしというのを非常に心配しています、環境として。その2点、よろしくお願いします。

#### ●佐久建設事務所

まず、浚渫をもっとやっていたら事足りるのではないかといたお話です。確かに河川断面を確保して流量を確保するのはごもっともな意見だと思いますので、先ほどお見せしたような浚渫工事を引き続き同時並行でやっていきたいと考えています。

また、浚渫工事だけですと、確かに河川の断面は流れやすくなりますが、流量が増えたピーク分をどこかで取り込む、抑え込まないと、千曲川本川自体にまだまだ狭隘な場所が残っていて、上が流れ安くなれば当然あふれてしまう懸念があります、それを今こちらの図にもあるように、佐久建設事務所管内の千曲川上流だけじゃなくて、千曲市や中野市などの下流にも、各々遊水地を整備して、あふれた水をカットしていく計画をしています。当然掘削もやりますし、堤防強化もやりますし、断面を広げられるところは広げていく、あらゆる治水対策を用いて進めていきたいと考えていますので、御理解をお願いします。

それと、跡地利用の関係ですが、まだ具体的に決まっていなのが正直なところです。今回買収方式で遊水地を買わせていただきますので、しっかり跡地利用は佐久市さんと相談しながら考えていかなければいけないと思っています。きちんとした維持管理も当然しっかりやっていきたいと考えています。

#### ●佐久市

ほかの方はよろしいでしょうか。

#### ○住民E

上桜井の〇〇と申します。私も地権者の1人ですが、この話が来たところで、まず、新聞で聞いた、見たということが本当のところなんです、何でここなのかというところから始まりました。先ほどいろいろと説明があつたんですけども、一番は、この桜井と

いう地籍は、市長さんは御存じだと思いますけれども、佐久の名物である佐久鯉の発祥の地でございます。そして、この 9 月にはフナが出たことをニュースに取り上げてもらって、観光のためにも市のほうでも力を入れてもらっています。

その中で、ここは長野県でも有数のいいお米ができる、特 A の産地の一つでございます。特 A の産地をわざわざつぶす必要はない。佐久鯉の里をつぶす必要はないというのが私の本来の気持ちです。

先ほどの囲ってしまった池というのは、1 回つくってしまえば、先ほどの方も言っていましたがつくって終わりというのが一番心配されます。遊水地の周りの環境もかなり変化します。先ほどの図を見ましても、非常に高い塀ができるような感じですよ。桜井の村が本当に変わってしまうというのは、区長さんの信毎のほうの記事にも出ていましたが、そこに住んでいる人にしてみれば、本当に苦しい、寂しい思いがあるのではないかと思います。

そしてまたこの地域には、いわゆる高齢化でなかなか農業ができないという人がいらっっしゃいまして、北桜井のほうですね、新聞のほうにも出ておりましたけれども、かなり委託されて、自分自身も農業専門でライスセンターまで経営してやっぺいらっっしゃいます。その人の育苗の施設がございます。この育苗というのは、やはり水と土地と条件が重ならないとできないわけです。単純に土地があればいいというわけではなく、非常に豊富な水といい土地があるからそこに育苗施設をつくってやっていると。

ですから、これを単純に代替え地を探すと申しますけれども、必ずしもマッチングできるかと、うちから離れてしまえばなかなか難しい部分がありますし、そこをお願いしている人も、今度うちは頼めないのかいとなった場合は、それを請けてくれる人をまた探さなければいけない。そういう部分が出てきます。

先ほどの計画というのを見ますと非常に早いんですね。令和 6 年には完了と、国のほうからも出ていますけれども、そうすると、その時間というのがあるようではないです。片方で工事期間が出ますから。そうすると、その人たちが本当に納得してその場所で農業を引き続きやっぺいけるのかというところまで保障してあげないと、その人たちが離散したり、場合によっては残念な結果になってしまうことが起きてしまっぺいは、それこそ村の責任、行政の責任になってしまうということは、後々まで残ってしまうということがございます。

ですので、つくるは簡単ですが、つくるまでにかんりの時間やその人たちの気持ちを十分推し量っていただいっぺに進めていただかないと、あとあと村を分断するような話になっぺり、賛成派と反対派が出てしまっぺり、後々まで桜井のこんな僅かな村がけんかするような形になってしまうとまずいので、その辺を、決して焦らないで、やるなら、先ほど言っぺりように千曲川の底を削ると。それが一番誰も傷つかなくて一番いいことじゃないかと私も思っぺりしております。ですから、まず千曲川の掘削をすることをお願いしたいと思っぺりいます。以上です。

#### ●佐久建設事務所

やはり皆さん反対される方もいらっぺりいますので、住民の意向調査も踏まえて、なるべく調整できることはどんどんしていきまっぺりすし、あと反対される方の御様子や相談も伺いながら進めていきたく思っぺりいますので、何とぞ御協力をお願いしまっぺりします。

○住民E

これは必ずもうやってしまうんですか。

●佐久市長

この事業主体は県ということになるんですが、この説明の中で流量をまかなう、先ほどの図にありました千曲川への負担が大きくなったものは、何らかの方法でカットしなければいけないということになります。そのことについて、有力な今の案という形になっていようかと思えます。そして、県と協議をする中で成案を得ていくと。

現時点における説明でありますので、この説明会を終えた中で、県を中心に考えをまとめていくということでもありますけれども、今の段階で、本日現在決定しているということではありませんけれども、説明会を行う、あるいはアンケートを行うという中で状況が決定していくものと私どもは理解をしています。

○住民E

それじゃあ、この地域の住民の個々の意見というのは聞いていただくチャンスはあるんでしょうか。

●佐久市長

アンケートを取ります。

○住民E

各家庭に？

●佐久市長

そうです。

●佐久建設事務所

今、市長さんが言ったように、各地区の方にもアンケートを実施いたします。そしてまた、当然地権者の方にも実施します。さらに周辺の所有者、土地をお持ちの方にも、先ほどお話ししました代替地や、営農できるような借地を協力していただけるかどうかの調査も併せてさせていただきます。

○住民E

今日の総裁選挙じゃないですけども、大逆転ということもあり得るわけですね。

●佐久建設事務所

いずれにせよ、その結果を受けてまたお話しをする機会を設けたいと思っています。

○住民E

では、住民の意見を聞いた内容というのはオープンにしていただげるんですか。

●佐久建設事務所

また区長会を通してこういった形で示していくのかを相談していきたいと思っています。

○住民E

示していただけるんですか。

●佐久建設事務所

ですので、区長会と相談させていただいて、示すかどうかをやっていきたいと思っています。

○住民E

いやいや、私たちが意見を言ったことに対してレスポンスをいただかないと、区長会と市で、もうやめておきましょうというのでは困るんですが。現状のまま「アイラブユー」という答えだけじゃ困るじゃないですか。

●佐久建設事務所

できる限りまとめた結果は公表していきたいと思っています。

○住民E

できる限りじゃなくて100パーセントと答えてもらわないと、私は納得できません。

●佐久建設事務所

区の代表者の集まりであります区長会がありますので、そこと御相談しながらやっていきたいと思っていますのでご理解願います。

○区長会長

すみません、区長会に話を振られたものですから、区長会長をしております〇〇と申します。皆さんとお会いする機会があまりなくてあれですけども、今の佐久建設事務所がおっしゃられた件ですけども、私ども、何回か区長会で建設事務所さんのほうにお邪魔して、いろいろと意見交換をさせてもらっています。

今、区長会の8人の中でもいろいろな意見があるものですから、どっちかに偏らないような方法を取りながら相談をさせていただいています。ですので、例えば地権者だけの意見が皆さんの意見みたいなそういった形ではなく、私どもとしては皆さんの意向がはっきり反映したような状態で皆さんにもお示しできるようにしていきたいと思っています。

表の中で令和6年までに完成というスケジュールが出ていましたけれども、区民説明会、意見交換をやったときに、スケジュールが見えないことには討論もできないということで、無理をしてあれを出していただきました。ですので、あれに向かって進んでいるというの

が分かることによって、我々も対応していこうということですので、知り得た情報を隠すとか、どちらかに賛成とか反対に意見を集約していくとはございません。

ですので、今〇〇さんがおっしゃられたように、アンケートや結果を建設事務所からいただければ、それを区長会と一緒に建設事務所さんのほうに行って公表するかどうかは決めていきますので、どちらか偏った回答になるような方向性を示すような形には持っていきませんので、その辺は御理解いただければと、よろしく申し上げます。

●佐久市

区長さんありがとうございました。

時間となりました。今までの説明会や明日も説明会がありますので、その中で出た質問も、今おっしゃられたような形で何らかの形で皆さんにお示しすることを市としても考えてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは、以上をもちまして、本日の説明会を閉じさせていただきます。長いことありがとうございました。

（了）

「令和3年9月 佐久市桜井地区で計画している遊水地の住民説明会」議事録

令和3年9月30日（木） 中桜井公会場2日目A（午後4時～）

●佐久市

それでは、質疑に入らせていただきます。挙手をしていただきまして、こちらで指名をさせていただきます。また、質問に当たりましてはマイクをお持ちしますので、まず、お名前を言っていただき、その後質問をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

いかがですか。せっかくの機会ですから、どんな細かいことでも構いませんので、どうぞ。

○住民A

上桜井の〇〇です。よろしくお願いいたします。遊水地の設計などのそういう土木技術に関することではないんですけども、ちょっとお話ししたいことがあります。というのは、実は先日、ちょうど2週間前になりますが、環境都市工学とか、水環境、土木工学、歴史学の専門家が集まって構成されている、もう皆さん御存じかもしれませんが、歴史的水害資料活用研究会というのが立ち上がっています。これも、台風の19号の後に立ち上がった研究会ですが、代表の方は、長野高専の先生がやっています。

実は、そのメンバーの1人で、古くから友人付き合いをしている友人が私のところに訪ねてきて、何かと思えば、桜井新田村の洪水と復旧工事の記録が絵図に残っているはずだと。私もすぐ、佐久市史の編纂にも関係しておりましたので、佐久市史という本で確認しました。歴史編の第3巻の近世というところの記述の中に、佐久地域の洪水、例の有名な寛保2年の戌の満水の記述があって、その中にそれよりも大きな被害を受けたのが桜井新田村の寛保2年よりも50年ぐらい後ですが、寛政2年から3年4年5年と、4年間毎年大きな大洪水で被害を受けていることが、絵図と記述から、記述は私が書いたわけではありませんが、読み取ることができました。

これまでの説明会でもたぶん話題になったかもしれませんが、地元の皆さんはもちろん御存じだと思いますけれども、少し時間を取って話させていただきたいと思います。まずその絵図面なんですけれども、これは北桜井の、今亡くなってしまいましたけれども、〇〇さん所有になっておりますが、私も現物はまだ確認していません。

佐久市史には5枚の絵図が載せられておりまして、今から230年前ですけれども、その4年間の間に毎年千曲川が洪水を起こして、そのたびに桜井新田がもちろん中心になりますけれども、上・中・下の村の村人たちが出て、復旧工事ということで、図面を見ますと堤防の補強などはもちろんですが、堤防から下流に向かって何本もの「水はね」という石積み施設の施設をつくっているんですね。それを増設したりして、毎年復旧工事をしながら大切な農地を守り続けてきたということが分かります。

ちなみに、当時の桜井新田の村は、今よりももっともっと千曲寄りの低いところにあつたので、実は50年前の寛保2年の戌の満水で押し流されてしまったんですね、屋敷地が。その後、これはまずいということで、今の高いところへ移転しているわけです。というこ

とで、集落のほうは寛政2年からの洪水では被害を受けることはありませんでした。

ということで、この桜井新田村の今までの江戸時代の大洪水とその復旧の記録というのは、当時の人たちが水と戦いながら、本当に自分たちの生活基盤である農地と集落を、苦勞に苦勞を重ねて守り続けてきたということを示しているんじゃないかと思います。

このような歴史的な背景がある桜井新田村、今の北桜井区なんですけれども、千曲川のそういう大洪水、洪水災害を乗り越えた人たちの先人の知恵や努力が生み出したものであるわけで、ある意味では、この桜井区全体の財産、もっと言えば、文化遺産的な側面もあるんじゃないかと私は思います。

これまでもいろんなことが議論になってきているところなんですけれども、今さらではありますけれども、そういう歴史的な観点からも、現在の農地、それから集落も含めてですけれども、何とか洪水対策と両立させることができないか。今まで以上に安全に集落や農地が営まれること、そして、後世に残していけることを強く望みたいと思います。

例えば、当初の計画の中で、この遊水地の計画地に地役権を設定して営農ができるというお話もあったと思います。この遊水地全体は無理にしても、ある一定のエリアに限って地役権を設定して営農ができるような、例えばそういう方策とか、それで不足する分は違う場所に連続してじゃなくてもいいんですが、近くに独立してそういうものを設ける。それで全体として必要な容量がためられるような、例えば素人考えですけれども、そういうことを再検討願えればありがたいなと思っています。以上です。

#### ●佐久建設事務所

歴史的な背景が当地区にあるということは、昨日もお話を伺いました。あと佐久鯉の発祥の地という話も聞いています。そういった歴史のある地域において、私ども今回お示したものは、どうでしょうかということで御意見を皆様からいただくために、今回、説明会を開催しています。今後は、皆様方に意向調査という形で個々に意見を聞くために、各戸に用紙をお配りし、皆様の意見を聞きながら、またどういった形にしていけば一番いいのかということを考えていきたいと思っています。これが最終的な決定ということではありません。貴重な意見をお伺いできましたことに感謝いたします。

#### ●佐久市

ほかにはいかがでしょうか。

#### ○住民B

今日は御苦勞さまで。百々川（ずうずうがわ）についてですが、私、前区長のときに見させてもらった資料があるんですが、川の起点が中桜井の今のこのグラウンドの向こうですね。それで大通りまで。大通りのところが起点に、地籍からいくとなっているような気がしましたもので、今のこの図だと、農業用水のところはずっと入っているような気がするんです、この7番の図の青い点々です。だから、この辺のところ、私もはっきりは分かりませんが、起点については昔の農協の横ですね。

それよりずっと下なんですね。ずっと来て今のグラウンドの横、この川がなくて、昔農協の池があったところ、そこが起点になっているような、地番からいくと両側を挟んで、

それをちょっと確認してもらえますか。

●佐久建設事務所

今の百々川ですが、県の河川台帳で起点・終点を調べたものです。実はこちらにも当たる水路もあり、川の起点なのかなというの、よくよく調べてみると、この図のとおりところが起点で出てくるので、今こちらに図示している状況になります。

○住民B

たぶん昔は、今のグラウンドの隅を、これから村の中に行っていたんです、北桜井の、たしか。そうしたらそれがずっと上がってそこが起点になって、地番でいくとね。その後どこか分からないですけども、地番でいくとそこが起点です。

●佐久建設事務所

分かりました。また確認させてください。

○住民B

百々川の起点の地番。中桜井のそこだから。

●佐久市

あとNo. 15、からしか改良しないんですよ、その理由だけもう一回説明しておいてください。全部改良するわけじゃないですよ。

●佐久建設事務所

こちら、No. 15がここで、この600m区間を改修するという予定です。

●佐久市

なぜそこからってということも。

●佐久建設事務所

こちらは山の斜面からずっと落ちてくる急流で、流速が早い状況ですので、見た目には狭くてもあふれるようなところではないと。こちらは逆に川と同じ横に走ってますので、流速が落ちることであふれるというところもあり、こちらは先ほどの計画のように、周囲堤がここにもでき、その分の水がここに入ってきます。その分をここで広げてあふれさせないようにする計画で進めています。

●佐久市

ほかにございませんか。よろしいですか。

また、お気づきの点がございましたら、先ほどのにもありましたが、アンケートへ聞きたいことがありましたら書いていただいて結構だという話でございますので、よろしくお願ひしたいと思います。

それでは、以上で説明会を閉じさせていただきます。ありがとうございました。  
(了)

「令和3年9月 佐久市桜井地区で計画している遊水地の住民説明会」議事録

令和3年9月30日（木） 中桜井公会場2日目B（午後7時～）

●佐久市

では、質疑に入らせていただきます。挙手をしていただきまして、こちらにて指名をさせていただきます。質問に当たりましてはマイクをお持ちしますので、まず、名前を言っただき、その後質問をお願いしたいと思います。

ではお願いします。いかがでしょうか。せっかくの機会ですので、どんなささいなことでも構いませんので、お聞きになっていただければと思いますが、いかがでしょうか。

○住民A

いろいろ御説明ありがとうございました。野沢の〇〇と申します。何点かちょっと確認をさせていただきたいんですけども、浚渫工事という点について、私、子供の頃から千曲川をよく見ておりまして、あまり浚渫をしているところを見たことがないんですね。ここ何日かの説明会で、やはり浚渫という言葉がいろいろ出てきたんですけども、1級河川に関しては、浚渫に関して国からの何か規制があってできないのか。ただ単に今までやらなかったのか。その点の確認をさせてください。

●佐久建設事務所

今までやらなかったわけではなくて、やってはいたんですが、あまり予算を確保できずやれなかったというのが実態です。維持管理の工事は従来では国の補助がいただけなくて、県のお金だけでやらざるを得ないものですから、やってはいたんですけども、そんなに大きくできなかったということです。

ただ、最近になって全国的にも洪水や河川の被害が多い中で、どうしても県の予算で維持管理的な浚渫工事をやっていくにはとてもできないことを、全国的に国に要望していましたので、今回、国の補助に切り替わりまして、大きくできるようになりました。ここ最近では、先ほど説明した箇所もそうですが、国土強靱化加速化ということで、より強くしていこうということで国の予算がついてどんどんやれる状況になってきました。

○住民A

その辺はよく分かりました。最近、瀬戸地区を歩いてみると、浚渫が終わっている場所がありまして、川ってこんなに広いんだなと感じたこともあるんですね。最近では、佐久大橋やそこから下流でだいぶ浚渫が始まっています。

さっきの3次元のを見たときに、千曲川のほうに堆積物がすごく多いんですね。どこに水が流れているんだろうというぐらい、ここ何でしょうと思って見ておりました。たまたま2～3日前の新聞に上高地の大正池のお話が出ていて、やはり30年かけてそれだけたまってきたと。やはり維持管理というのは非常に大事なことだとは思っているので、こういう災害が起きないとそこのお金がかからないというのは、非常に何かおかしいなということがありますので、ぜひ皆さんそこは頑張って、どんどんそういうところから進めて

いただきたいと考えております。

それともう一点、この説明会に出ておりました、浚渫のことと田んぼダムとかいろいろなお話が出てきましたけれども、この説明会をして、そういったことを考えた上でこの遊水地の計画ができたのか、またこれからいろいろアンケートを取ったり、昨日、一昨日、その前の御意見を伺ったりして改良できる点というのはあるんでしょうか。

#### ●佐久建設事務所

田んぼダムの検討ですが、昨日も同じ御質問等がございました。長野県の流域治水推進計画に入っていることだと思います。最近国でも、流域治水という大きな課題を持ってこれから河川の整備のあり方を考えていこうと動いてきています。その流域治水の概念というのは、またホームページ等で出ていますが、河川整備と、そしてまたそれに代わるまちづくりや住民避難の取組といったソフト政策、そしてまた流域における雨水貯留等の取組といった三本柱であり、長野県も国に準じて進めていきたいと思っています。

この計画は今年の2月に策定された全く新しいもので、これを5か年の間にどれだけできるかということで、県のほうも検討して進めている状況でして、今の田んぼダムという話でいきますと、長野県下では6市町村が取組の可能性について検討しているという段階です。

当然、個人の農地ですので、耕作者の協力が絶対不可欠です。これをどういった形でまとめられるのか、そしてまた、それを統一的にどのような形で遊水地に代わるようなものになるのかは、まだスタートした段階で、これと比べられるという段階ではない状況です。

ただし、田んぼダムというのはすばらしい取組ですので、たくさんためれば河川に対して負担は軽減されるものだと思いますので、それをどう生かしていくのか、どう運用していくのか、どう協力いただくのか、そういったものが大きな課題だと思います。

また、県では、それより先に県の施設において雨水を貯留するタンクの設置を進めています。これは、最終的には市町村の施設、そしてまた、個人のお宅へそういった貯留施設をつけてもらう補助だとか、そういったところを研究している状況です。皆さん一人一人がそういったところの治水の安全を確保するために御協力いただけるようになれば、当然ながら河川への負担が軽減していくものだと確信しています。

また、たくさんのメニューがありまして、ホームページでお示ししていますが、まだまだ始まったばかりの計画ですので、皆様の今後の御理解をお願いいたします。

そして、30日から行っていますこの説明会ですが、皆様からたくさんの意見をいただいています。そして冒頭で御案内したように、意向調査を行い皆様からの意見をいただく準備していますので、そこでまた皆さんの意見等も集約しまして、それを今後の設計にどれだけ反映させていけるか、検討させていただいて、また皆さんにお示ししたいと考えていますのでよろしくお願ひします。

#### ○住民A

ありがとうございます。皆さんにとっても初めてのことでしょうし、みんながみんな納得のいくということはなかなかできないと思いますけれども、やはり細かな丁寧な説明は必要だと思うので、これからも皆さんに分かるように、丁寧に説明いただければと思ひ

ます。ありがとうございました。

●佐久市

ほかにいかがでしょうか。

○住民B

今の〇〇からの質問に関連して、私、今存じ上げなかったのですけれども、県下6市町村が検討中というお話でしたが、それはどこか明らかにしていただけますか。その中に佐久市は入っているのでしょうか。

●佐久建設事務所

2025年度までに検討していく目標数として6市町村ということです。この6市町村は今のところホームページでは公表されていません。

○住民B

別の観点からですが、遊水地の危険性の問題で、外水の氾濫の危険の問題で、御影橋上流の洗掘の問題、それから今年の夏の洗掘の問題、この写真の資料をつけてくれということでお話ししたところ、それに応えていただきましたことに敬意を表したいと思います。

ただし、2017年10月のこれは結構大きな台風でありましたけれども、信濃川水系の北佐久圏域河川整備計画という県の計画の中に、主な水害の例というのが出ているのですが、そこには載っていない規模の災害なわけです。あるいは当然ながら今年の夏の洗掘などは、ここにお越しの方でも知らない方がいらっしゃるんじゃないでしょうか。申し上げたいことは、県でも主な水害という形で記録されないような台風でも、本川にこういう重大な洗掘事例があると。これは極めて大変なことだと思うんですね。

それは、私たちが今、1000年確率のことを議論しているのに、わずか4年弱でこういったことが起こっているということを本当に直視しなければいけないと思うんです。そうおいった意味で、桜井地域、とりわけ北桜井の集落というのは、本当に今、こういったものができた場合に、いかに堤防が強化されたとしても、1000年確率の中で考えていったときに、あそこは東電の調整池の取入れ口のことを考えても、恐らく100年前から流れは変わっていないと思います。そして今後も同じような流れだと思うので、アタックポイントはやはり同じようなところがずっと続いていくんだと思います。そうしたところを10年ぐらいいいでしょうけれども、本当にながちりをガードできていく保障というのはあるのかどうかという問題があります。

そういうことを考えると、この計画というものは、本当に住民にとって安全なものなのか、あるいは不安を呼ぶものなのかといったときに、それは大きな不安を呼ぶものでしかないと思います。引き続きそこは指摘したいと思います。

そして、この遊水地の有効性ということを私は非常に疑問に思います。このコンセプトというのは盛んに強調されましたけれども、改良復旧に伴う流下量の増大をカバーしていく、地元でカバーしていくという考えです。論理的には分かるのですけれども、そしてそれを保全する対象というのは下流のところに負荷をかけないということになるわけですが、

その下流で本当に大規模な氾濫が起きた、歴史的な氾濫が起きたのを考えると、1742年の  
 戊の満水を挙げるすることができます。

そのときに、国交省の河川事務所自体の計算値でいっても、千曲市の大正橋から立ヶ花  
 の間に氾濫したものがどれだけあったかという、3億1,060万立方と計算していて、それは  
 信大の研究論文ともほとんど一致しているんですけども、そういう数字です。私は今  
 でも自分の勘違いじゃないかと、今でもこの瞬間でも思っているんですけども、あれだけ  
 私たちにとって大事な地域、広い地域をつぶしてできる遊水地はどれだけのものかとい  
 うと、110万㎡ということで、東京ドームが124万㎡なわけですよ。ということは、うそだろ  
 うと思うんです。東京ドームにすら満たない量のものをつくって、そして下流域でもって、  
 私たちが1000年確率で考えなければいけないものが、もう3億1,000万とかという単位のも  
 の。つまり、これは本当にスプーン1杯みたいなものなんですね。

しかも、これをつくってしまうことによって優良農地は当然つぶされてしまうわけだし、  
 あるいはまた、地場産業である鮮魚を飼っていらっしやるどころだとかも、現状でも内水  
 氾濫の被害があるんですけども、そういったことへの不安なども大きくなってきます。当  
 然鯉を飼っている池もつぶさなければいけない。あるいは、苗を育てているハウスもつぶ  
 さなければいけない。非常に経済的な効果は生まないのに、損失ばかり大きいのに、これ  
 は一体私たちに安心・安全をもたらすのかということと逆である。

その意味で、本当に発想を転換しないとこれはいけないと私は思います。その意味で、  
 昨日も田んぼダムのことを提起したわけです。帰りがけに佐久市長にも、ぜひ県のほうに  
 提起していただいたらどうですかということをお願いしました。県との話し合いの中で触  
 れてみるような印象でした、そういう言質でしたので期待はしたいなと思いますけれど、  
 この資料の中にあつた下流域の刈谷田川は、遊水地だけではなくて、その近辺では広く田  
 んぼダムの取組も行われています。新潟県は、一番田んぼダムが歴史も古いですし、進ん  
 でいるわけですけども、全国でも、私の知る限りでは九つの道県で、北海道から九州ま  
 で取り組まれている。同じ下流域で新潟県が一生懸命取り組んでいるならば、長野県は一  
 体になって、それこそ流域治水の考え方で、まずそれを進めていく。田んぼを擬性にしな  
 いで田んぼを生かす治水方式ということで、総合治水の観点から取り組んでいく。単に土  
 木行政だけではなくて農政と一体となってそれを進めていく。そういったことを私はこの  
 経過の中で進めていくべきだと思います。

拙速に優良農地をつぶしてしまつて、しかもその住民に不安を与えるような形で、あ  
 の形を見ても分かるように、非常に異常な形じゃないですか。集落が取り残され囲まれる  
 ような形で。それは、やはり住民本意ということとはほど遠いことだと私は思います。

田んぼダムの話に戻りますけれども、田んぼダムはいいところが幾つかあります。課題  
 もあると思いますけれども、一つには、やはり内水氾濫に対する安価な対応策だとい  
 うところも着目すべきだと思います。ためるのは遊水地と違って、遊水地の砂混じりの水では  
 なくて天水ですから。そういったこともあります。私は本当に真剣にそこを考えていく必  
 要があると思います。

その意味で、私は、お客さんみたいに佐久市の方々が来ておられるのではなくて、そ  
 ういったことについてどんなふうに取り組んでいくのかも、佐久市の方々からもお聞きした  
 いと思っています。以上です。

●佐久建設事務所

昨日に引き続き貴重な御意見をいただきありがとうございます。

流域治水ということで全体的にも考えなければいけないと思います。今回のご意見をもとに、こちらでできることを模索していきますのでよろしくをお願いします。

●佐久市

ほかにはいかがでしょうか。

○住民C

〇〇と申します。今に関連した話なんですけれども、今まで皆さんの言われたように、戊の満水以下手痛い被害を被っているんですね、この地区は。それにもかかわらず、千曲川の整備にしても、その支流にしても、今までほとんどほったらかしだったんですよ。それで、急きょこの遊水地という話が出てきたんですけれども、何か新しいことをやればそれで解決できるような考え方でやるんじゃなくて、既存の施設というのをどうやって整備してきれいに使っていくかということが欠けているんですね。

だから、やはり今言ったように、堤防のかさ上げ、それから河川の掘削、それと樹木の撤廃とか、こういう本川と支流の完全な整備をやれば、あなた方が言うように支流の水が一気に流れ込んで増水するからそれを\*\*\*としてやるなっていう発想は、それはそれでいいですよ。だけど並行してやる必要はないと思うんです。

まず本川と支流を完全に整備して、本当に水が飲み込めないのか。それからでも遅くないじゃないですか。もし遊水地をつくりたいというのだったら、それでも駄目なら遊水地をやりましょう。ただ並行して、今のこの段階でやるべきではないと思うんですよ。

ましては、この遊水地をつくってしまえば、もう作物は全然取れません。今は皆さん御存じのように、日本の食糧自給率は幾つなのか分かっていますか。国がどのぐらいの目標の食糧自給率を上げようとしているかは分かっていますよね。それで、今、佐久平＝地区＝なんかは、もう優良地をほとんどつぶしちゃって、またここをやれば、国の政策に反することとは思いませんか。

どうしても遊水地をつくらなければならないということになれば、まず、今までやってこなかった本流の整備とか、そういうことをきちんとやって、それでも駄目なら遊水地。今言った田んぼダムにしても、もっと経費を安くしてできるわけですよ。こんなに大事業をしなくても。だから、そういう手立てを取ってからこの遊水地計画というのを検討してみてもいいんじゃないですか。私はそう思いますけれどもどうですか。

●佐久建設事務所

貴重なご意見ありがとうございます。12月の説明会のときにも同様の意見をいただいています。このプロジェクトにより、流域全体で取組みをする。今までは市町村、国、県も、個々の管理区間を、それぞれが整備を進めていて、連携した取組みができていなかった実態があります。

そういった中で、令和元年東日本台風の大災害が起きて、早期に、二度とこういったこ

とが起きないように、流域全体でプロジェクトを立ち上げたわけです。

遊水地は信濃川水系にあります。別の水系も同様な対策を進めているところです。このメニューの中には、今お話があったような河道掘削、堤防の傷んでいるところは補強をするなど、場所場所で必要な整備を考えています。

最近は大規模災害が毎年のようにまいます。そういった状況のなかで、同規模の台風がきたらまたあふれてしまうということがないように、すぐやりましょうということで、目標年次を決めて、それに向けて進めていきたいということです。遊水地は第2段階という目標になっていますが、これは国が主体になって令和6年という線を決めて、まずはそこを目標として、すぐにできることをやりましょうというものです。本川の中の個々のいろいろな事業を組み合わせ、令和元年東日本台風と同じ規模の雨にも被災しないようにするのが今回の令和6年の計画、第2段階というものです。

そしてその次は、令和9年とありますが、通常の河川に余裕高を持たせるための第3段階の整備です。そこまでがこのプロジェクトの目標となっています。

今まで、こういった流域全体を通して、それぞれが一つの目標に向かって事業を進めるということはありませんでした。今回の令和元年東日本台風を契機にこのプロジェクトができたということです。

その中に、ここにあります遊水地計画が位置づけになっています。当然ながら、本川の河道の浚渫についても、喫緊にやっていかなければいけないものであり、今後も進めていきます。

いただいた御意見は重々承知していますが、今、こういった形で動いているということをご理解をいただきたいと思います。

●佐久市

ほかにはいかがでしょうか。

よろしいですか。今後また、県のほうで意向調査やアンケート等ありますので、その中でまた気が付いた点がございましたら、お書きいただければと思います。

それでは、以上をもちまして説明会を閉じさせていただきます。ありがとうございました。

（了）